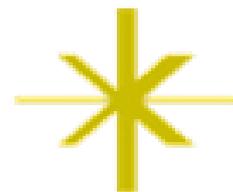


令和4年度
事業報告

特別養護老人ホームかがやき

ショートステイかがやき

小規模多機能型居宅介護かがやき



令和5年5月作成

特別養護老人ホームかがやき 令和4年度 事業報告

《施設理念》

安心と穏やかな生活

《基本方針》

- 1、人としての尊厳を重視し、利用者およびご家族の想いを大切にします
- 2、共に暮らす喜びと家庭的な雰囲気をつくります
- 3、いつも同じ、なじみの環境をつくります
- 4、利用者が安心して穏やかに普通の日常生活を最期まで送れるように支援します
- 5、地域にひらかれた交流の場をつくります

《介護方針》

- 1、専門性に基づいた介護ケアと、医療との連携による看取りケアを実施します
- 2、入居者の方が、普通の日常を送れるよう、さりげない介護を実践します
- 3、各ユニットの特色を活かし、細やかな支援と個別支援の充実を図ります
- 4、在宅生活への復帰を可能な限り支援します
- 5、利用者およびそのご家族を支える包括ケアを実践します

令和4年度 事業報告

<特養・ショート>

- 1、組織力の強化
- 2、看取りケアの充実
- 3、総合的な介護技術の向上
- 4、入所稼働率の安定

<小規模多機能型居宅介護>

- 1、組織力の強化
- 2、サービス内容の充実
- 3、ご家族、医療、地域との連携
- 4、稼働率の安定

<研修関係>

○令和4年度 総括

令和4年度は、「看取りケア」においてご家族との対話を充実させることができた年だったと思います。看取り件数も12件と前年度を上回り一番多い年となりました。その背景には、ご家族に、より看取りケアを理解して頂き最期の時間を悔いのないものにして頂きたいという職員の思いがありました。

昨年度、介護職員が安心して看取りケアをできる体制を強化したことで、看取りを悔いのないものにするには、元気なうちから「今できる（今しかできない）支援」をさせて頂くことが必要だと、更に次のステップへ進んだと思います。

実際に、長く自宅に帰れなかった方の帰る支援をしたり、最期に自分の畑にミカン取りに行ったり、ご家族との対話を通して職員から提案した支援でした。

また、ご家族向けに「看取りパンフレット」を作成し、看取りケアの具体的なイメージを持って頂くことで、その時がきても慌てず、家族と職員が同じ時の流れを共有できるようになってきたと思います。

このように看取りケアの取り組みができるのも、看取りケア担当の職員を中心とした全職員の協力と、いつも私たちをサポートしてくださる囑託医の中尾先生のおかげです。先生の勧めもあり、次年度はかがやきの看取りケアを発信していくことにチャレンジしようと考えています。

昨年度に引き続き、事故防止対策にも取り組み、特に保湿ケアは定着しました。入浴後、オムツ交換時、全ての利用者の方の保湿ケアを行うことで皮膚剥離事故が減少しています。目標としていた骨折事故ゼロは達成できませんでしたが、事故委員会を中心に勉強会にて職員の意識を統一し、その後の骨折事故は予防できているので、次年度も継続して取り組むようにしています。

事故防止、職員の負担軽減対策から、ノーリフトケアを導入。専門業者との連携で全職員が研修を受けながら移乗用リフトを使い始めました。体の大きなご利用者や拘縮の強い方でも、介護職員が一人で安全に移乗ができるため、今ではなくてはならないものになっています。

外国人雇用にも積極的に取り組み、令和4年度は7名の外国人が在籍していましたが、それぞれの事情で4名が退職（2名は帰国）となる等、令和4年度の離職率は 11.6% でした。

外国人教育担当職員を中心に、公私共にサポートする体制も整い、7月に入社した技能実習生2名は、年度末には早出・遅出が独り立ちできるまでに教育できています。

また、長く働くことのできる職場をつくるため、定年を72歳に改定し、常に職員の状況を把握しながら、働く環境や時間の調整を行いました。

ご家族への支援としては、コロナ禍ではありましたが、どこよりも早く面会制限を解除し、感染予防に努めながら対応しました。「面会できるようになって良かった！先が見えて良かった！」と私たちが思う以上にご家族が喜ばれました。これも看取りケアを行うからこそその対応でした。

地域交流としては、長与中学校の職場体験、希望ヶ丘高等支援学校実習、活水高校との交流を行いました。施設内の業務やご利用者の様子、公益事業の「み館」のことも紹介し、子供達なりに地域にある施設として理解できたのではないかと思います。

令和5年度も、看取りケアの更なる充実と、職員にとってやりがいのある職場、働きやすい職場づくりに努め、ご利用者とご家族の「安心と穏やかな生活」のため職員一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

<特養・ショート>

1、組織力の強化

(1) ユニットリーダーを中心としたチームケアの充実

- ①施設長、副施設長とユニットリーダーとの情報共有を徹底し、管理職間の状況把握や協力を努める。(管理職会議：月1回、リーダー会議：月1回)
迅速な情報共有の為、チャットワークを活用する。

<<結果>>

理事長を含めた管理職会議(週1回)、多職種で構成したリーダー会議(月1回)を開催し、運営状況の確認や、職員の状況把握を行った。迅速な情報共有を行うため、チャットワークを活用し、それぞれの立場からの連絡事項や、看取りケア時の全体への情報共有をリアルタイムで行った。

②ユニットリーダーの育成

- ・ユニットリーダーは、リーダーとして必要な知識やコミュニケーション技術を習得する。ユニット職員とのコミュニケーションの充実を図り、円滑なユニット運営をできるようになる。ユニット職員からの相談や情報をユニットリーダーが把握した上で、施設長、副施設長と共有する体制を構築する。
(管理職対象の研修の参加、マネジメント研修の参加)
- ・実際のユニット内での職員の相談事例について、リーダーとしての対応や、課題等を検討する勉強会を実施する。

<<結果>>

ユニットリーダー2名がユニットリーダー研修を受講し、ユニットケアとは何か、また自身のユニットをどのようにつくっていくかを学んだ。前年度までは、施設長に直接相談する職員が多かったが、ユニットリーダーが職員とのコミュニケーションを積極的に取ったことで、リーダーを介して情報が共有できるようになった。

相談事例に対する勉強会の開催はできなかったが、その都度、リーダーと施設長、副施設長が相談し最善策を検討した。

③ユニットリーダー、その他職員との面談の実施(年1回)

- ・施設長が全職員と面談し、職員がどんな思いや目標をもっているか把握し、その目標についてサポートできるようにする。その上でユニットリーダーとの面談を行う。
- ・ユニットリーダーは、ユニット職員との面談を実施後、施設長との面談を行う。施設長とユニットリーダーとの間に、職員の思いや様子について相違がないか、情報の共有を行い、連携してサポートできるようにする。

<<結果>>

年度初めに、理事長と施設長で全職員と面談を実施し、職員が持っている夢や目標、現在の家庭事情などを聴きとった。その中で共有可能なものをリーダー達と共有し職員のフォローをできるように努めた。

ユニットリーダーは、常に職員とコミュニケーションを図り、そこから得た情報を施設長と共有した。また、何か課題が生じた際には、まずユニットリーダーに確認し必要時には施設長が面談を行った。

④他ユニットを知ることで、互いに協力ができるような仕組みを作る。

- 職員の定期的な異動をし、自ユニットだけでなく他ユニットの理解を深め、互いに思いやって協力できる体制をつくる。急な職員の不足の場合にも、どのユニットの職員でも対応できる強固な組織を構築する。

《結果》

退職者が出たこともあり 3 名の職員の異動を実施した。フロアの異動をしたことでそれぞれのフロアの様子が変わる職員が増え、理解や協力がしやすくなった。

また、異動後もすぐに慣れ支障なく業務に入ることができ、外国人を含めた介護職員の介護技術の向上が伺えた。

(2) 働きやすい環境の整備

①職員平均 10 日の有給休暇取得

年間 5 日の有給休暇取得はできているため、それ以上の年間 10 日の有給休暇取得を目標とし、職員に余裕のある働き方を推奨する。

《結果》

ユニットリーダーと事務が協力して年間 5 日の有給休暇を漏れなく取得するよう徹底した。自身の有給日数をいつでも確認できるようにし、職員自身でも管理できるようにした。有休取得に偏りがあるため取得しにくい職員は特に気をつけ声かけを行った。年間 10 日の取得については少数に止まっているため次年度も継続して取り組みたい。

②職員と随時、身上面接を行い、働く上での不安や困り事がないかを確認する。全職員が自身の生活に合った働きやすい勤務シフトの検討を行い、長く働くことのできる職場を目指す。

《結果》

年度初めに全職員に対し理事長・施設長面談を実施し職員の状況の確認を行った。その中で課題のある職員、不安や心配のある職員を中心に必要時に面談を行う等の対応をした。

気軽に相談ができるよう、施設長やユニットリーダーが LINE 等のツールを使い、いつでもコミュニケーションを取れるようにした。

希望のあった職員のシフトの検討は必ず行い、無理なく働くことができるよう配慮した。

③職員間の親睦

・ユニットやフロア毎に、気軽に話のできる親睦会を開催し、日頃のストレス発散や、一緒に楽しむ場をつくる。(年 1～2 回)

・職員誕生日交流会を行う。法人内の職員同士の交流を深め、円滑なコミュニケーションが取れるよう、「みんなのまなびば み館」にて、毎月、誕生日の職員を対象に誕生会を開催する。普段の業務とは違う場所で、職員一人一人の興味関心や悩みを話す機会となるよう取り組む。また、み館での取り組みや法人としての思いを直接職員に伝える場としたい。

《結果》

コロナで制限していたものをなくし、職員が自由に会食等ができるようにしたことで、それぞれが感染に注意しながら食事等を楽しんでいた。

みんなのまなびば み館で、毎月、職員の誕生会を開催。多職種、他フロア職員の交流となり、業務以外での一面を見る機会ともなった。初めてみ館を利用する職員もおり、その後、み館に立ち寄るなど、公益事業の「み館」への理解、関心も深まった。

(3) 介護ロボット(ICT) 委員会活動

①ノーリフトケアの取り組み

前年度に実施したノーリフトケアモデル事業で学んだことを検証し、ノーリフトケアの必要性や実施に向けて職員の意識、技術を深める。

《結果》

ノーリフトケアモデル事業には、担当する作業療法士と、各ユニットリーダーが参加して

知識と技術を習得していた。また、全体勉強会を実施し職員の興味や必要性を確認した。

次年度はノーリフトケアを実際に進めていくため、年間を通して外部講師に研修会を依頼。全職員を班分けし、全職員がノーリフトケアの取り組みに携わるようにしている。

- ②他の介護ロボット活用についての検討を行う。委員会メンバーが研修会に参加し、どのような介護ロボットがあるのか情報収集を行い、有効活用できる物がないか検討する。

《結果》

ICT を担当する職員が、行政からの情報や研修で、介護ロボット機器の新情報を得て共有した。機器に関する業者への確認や補助金を利用できないか等、積極的に取り組んでいた。

(4) 技能実習生及び外国人の受け入れに関する取り組み

- 令和3年4月～ 外国人常勤雇用（4名：スリランカ、ベトナム）
- 令和4年 ～ 技能実習受け入れ予定（2名：ミャンマー）

1) 外国人受け入れに伴う研修の参加

担当だけでなく、ユニットの職員にも受講してもらうことで、外国人雇用についての理解を施設全体で深める。

- ・技能実習指導員講習の受講（介護福祉士2名受講済）対象：ユニットリーダー
- ・生活指導員講習の受講（1名受講済）対象：指導担当者
- ・技能実習責任者講習（1名受講済）

《結果》

ユニットリーダー3名が技能実習指導員講習を受講。技能実習に係る制度等を含め学んでいる。

2) 技能実習生（ミャンマー）受け入れについて

①受け入れスケジュール

- ・入国後1ヶ月半：入国後講習（こころ医療専門学校）
- ・入国後2か月目：施設にて実習開始（1年目：技能実習第1号）
- ・実習6ヶ月～12か月：介護技能実習評価試験（筆記、実技）
日本語検定 N3 合格

《結果》

受け入れスケジュール通りに進んでおり、施設内では、8か月目に早出・遅出の独り立ちができています。本人達も業務に対し積極的に取り組む姿勢もあり、職員も外国人教育に慣れてきた成果でもある。

②各種書類の整備

- ・定期監査（技能実習が計画通りに進んでいるか）：1回／3か月
- ・技能実習の受け入れマニュアルに沿って、必要な書類の整備を行う。
 - ・賃金台帳、出勤簿、有給休暇請求書、技能実習計画
 - 技能実習日誌、労働条件通知書、等。

《結果》

定期監査については、指摘事項なし。毎月、協同組合（こころ医療福祉専門学校）の担当職員の訪問があるため、不明な点はその都度対応している。

③外国人勉強会等の実施（毎週水曜日）

- ・指導担当者が、基礎介護技術を指導。業務中の介護職では指導が行き届かない細かな部分を指導する。（移乗介助、口腔ケア、更衣介助、オムツ交換等）

- ・施設内の各種マニュアルの整備（やさしい日本語）
- ・こころ医療専門学校と連携し、日本語の学習をサポートする。日常生活だけでは不足する日本語の学習について、アプリを使い学びやすい工夫をする。
- ・1年後の日本語検定（N3）合格を目指す。
- ・学習支援訪問（こころ医療専門学校）：1回／月

《結果》

週1回、外国人指導担当者が日本語の勉強会を実施。業務内での疑問や不安なことを解決していった。その他、協同組合からのサポートや、実習生自身で受けている研修もあり、積極的に日本語の習得に努めていた。

④ユニット配置後の指導

1年目は、早出・遅出業務の習得を目標に指導する。（雇用後6ヶ月から配置基準に含めることが可能）

《結果》

当初は12ヶ月を目標にしていた早出・遅出の独り立ち、実習生の業務習得スピードが速く、本人達の希望もあり、8カ月で可能となった。

⑤私生活での相談や支援（指導担当者＋ユニットリーダー）

技能実習生については、業務だけでなく生活支援も必要であることから、ユニットリーダーと指導担当者が連携し、総合的に状況を把握しながら支援を行う。

- ・宿舎訪問：2回／月 指導担当者又はユニットリーダー
ゴミの分別の確認、大物の買い物等、生活でのサポートを行う。
- ・交流会：定期的に他法人の外国人との交流会を実施。み館と協働し、近隣や他法人にいる外国人の交流を行い、それぞれの興味感心や悩みを話せる場をつくる。

《結果》

指導担当者がアパートの準備から、生活がスタートした後の問題についても対応し、技能実習生と信頼関係をつくっている。春夏秋冬に対応した衣類の準備をしたり、ゴミの分別等、自治会に迷惑をかけるようなこともなく、指導者及び職員の協力によりスムーズに生活をしている。

公益事業の「み館」にて、地域の外国人の交流会があり参加している。また、毎月、協同組合であるこころ医療専門学校の先生と、同じミャンマー人の職員の訪問があり、母国語での悩み相談や近況報告をしている。

(5) 委員会の編成（全委員会に施設長又は副施設長が参加）

	委員会名	NS リハ	結の郷	彩の郷	陽の郷	ショート	小規模	委員会 開催日
1	感染症対策委員会	◎茂田 NS	山口は	丸山	田中	西田	今田	4回/年
2	褥瘡対策委員会	◎山口 NS 野中 NS	池田	牧	田中	森（秀）	平井	第3金曜
3	看取り委員会	◎山口 NS	石寄	牧	野村	森（秀）	宮崎	第1水曜
4	事故・リスク 医療的ケア	山口 NS	石寄 ミヤツ	◎下田	平田	西田 ランディマ	比留澤 松瀬	第3水曜

5	生活機能向上 行事・研修 ボランティア	高村 OT	大平	ス	野村 山脇	◎井手	坂本 谷川	4回/年 第2木曜
6	苦情対策 身体拘束 虐待対策	茂田 NS	◎池田	伊藤	中山資	森（秀）	吉野	4回/年
7	介護ロボット	◎高村 OT 畑村	池田	下田	中山資	中山博	江原 CM	不定期
8	消防・災害・防犯 対策委員会			下田	中山資	◎中山博	川下	4回/年
9	給食委員会	管理栄養士+各ユニットより1名参加						毎月

①感染症員会：看護と協働し、コロナ感染症等の感染予防対策について、クラスター発生時の状況を振り返り、マニュアルや備蓄品の整備を行う。

N-chat の入力を徹底し職員の体調不良等の早期発見につなげる。

《結果》

クラスターの経験を忘れないよう感染委員会を中心に、ガウンテクニックのチェックを全職員に行った。ガウンやマスク等の備蓄品については、事務局と連携し、7～10日分の備蓄をしている。

N-chat については全職員が入力に協力し事務局が毎日チェックした。入力忘れの職員には声かけすることで徹底ができた。

②介護ロボット委員会：令和3年度にノーリフトケアのモデル事業に参加した経験を活かし、ノーリフトケアについての理解を深める。

《結果》

担当する作業療法士とユニットリーダーがモデル事業に参加したことで、自信をもって職員にノーリフトの必要性や技術を伝達できるようになった。必要性について半信半疑だった職員も実際に移乗用リフトを使用することで理解を示し、積極的に活用するようになっている。

③各種委員会：指針・マニュアルの見直しを行う。（適宜）

《結果》

誤薬事故があったことで、服薬マニュアルを見直した。委員会で検討を重ね、チェック機能を増やし、その後の誤薬事故もなくなっている。

④研修関係：各委員会がそれぞれの分野で年1～2回の研修を開催する。

《結果》

各委員会が毎月実施した勉強会で1～2回担当しそれぞれの分野の発表をした。

- ・感染防止委員会・・・コロナ感染症関連で「換気について」というテーマを取り上げ、施設内の換気の方法について周知した。

- ・介護ロボット委員会・・・ノーリフトケアについて全職員に説明を行った。

- ・生活向上委員会・・・ユニ・チャームの担当者より新商品の紹介やオムツの当て方、交換時間の確認を行い、すぐに現場で活かした。

(6) 特養ユニット



【陽の郷】理念：陽のような暖かさの中で、入居者が最期まで穏やかに過ごせるようなユニットをつくります

○目標1：利用者も職員も、季節や自然を感じて生活できる空間づくりをする

コロナ禍で外出ができない中、ユニットの中でも季節や自然を感じて、気持ちも明るく生活できるようにしたい。

①花や自然のものを絶やさないユニットづくり

現在、毎月、ご家族からお花が届く利用者があるが、ユニットの中に自然のものがあると、利用者も職員も気持ちが明るく会話も増える。ユニットでも花や観葉植物など、自然のものを多く置き、明るい雰囲気をつくりたい。

《結果》

熱帯魚や観葉植物はユニット内で管理していたので植物がある環境は作れていたと思うが、季節の花を買って育てるということは少なかったように感じる。2週間に1度花をユニット費で購入し、生花ゾーン（みんなが見れる場所）を設置するなど決めればよかった。

②園芸レク

昔は「豆作りの名人」と呼ばれていたという利用者や、生け花をしていたという方がいるので、園芸レクを行い、実際に育てた花や野菜をユニットに飾ったり、調理して利用者の楽しみをつくりたい。

《結果》

ベランダに花があったが、知識のある職員がいなくなったので枯らしてしまった。興味のある利用者様に担当になってもらい、定期的にお世話をしてくれるような工夫が必要だった。家族から毎月お花が送られてくる利用者様があり、楽しみにされリビングで活けておられたことは良かった。

③散歩や外出の支援

「外に行きたい」「家はどうなっているだろうか」という利用者の言葉を大切に、月1回のドライブや外出支援を行う。毎月、1人の利用者の外出支援を実施。その方の希望に沿って行先を決める。その際に、ご自宅にも行き、どんな地域で生活をされていたのかを職員も知ることで支援に活かす。

《結果》

以前から「雲仙に行きたい。」と言われていた利用者と、そのご家族と一緒に計画を立て雲仙ドライブに行くことができた。数年ぶりの家族旅行をととても喜ばれた。毎月1名の外出を考えていたが、運転ができる職員に限られる等、勤務調整が追い付かず達成はできなかった。ご利用者様のADLや体調で外出のタイミングが変わり外出困難になると、支援が偏りがちになるので、全てのご利用者様への支援をできるようにしたい。

④季節の食材を使って利用者と食べ物をつくり、食卓に並べることで、季節感

や食事の楽しみをもつ。梅干しづくり、漬物、干し柿等、春夏秋冬の食材を使い、作り方を利用者やご家族に教えてもらいながら、出来上がりを楽しみに待つ。

《結果》

利用者やご家族に教えて頂くことが難しかったが、栄養課が企画した梅干しづくりに参加し、懐かしい時間を過ごして頂けた。出来上がりを楽しみにされる利用者もおり、何かを作ることの楽しみを改めて感じる事ができた。

○目標2：利用者のことを一番知っている職員になる

担当職員が、利用者のことを一番知っている職員になり、日々の生活やご家族とのやり取りをしながら利用者本人の一番の理解者となることを目指す。

- ①誕生日会を利用し、担当者が本人や家族に聞き取りを行い、利用者の年表を作成。その当時の時代背景や地域の様子などを調べ、担当する利用者がどんな人生を送ってきたのかを発表する。また、その誕生日の際には、ご家族を招待し、ご家族からの言葉や手紙等、利用者への思いを伝えて頂く。

《結果》

コロナ禍ということもあり、利用者様の家族とは面会や電話等、これまで以上にコミュニケーションを取ることを気がけ、できたと思う。誕生日に年表を作成することは、思うように取り組むことができなかったが、一人のご利用者様の誕生日にご家族を招待し、ご本人が好きだったピアノのコンサートをプロジェクターで放映し一緒に楽しんで頂くという企画は、とても喜んで頂いた。

- ②6か月毎の介護計画書の見直しの際は、介護支援専門員と共に担当職員も一緒に面談し、ご家族の意向の確認や現状を共有する。また、その際にご親族のイベント（冠婚葬祭等）を聞き取り、利用者が参加できる行事がないか確認する。

《結果》

介護計画書の見直しは、担当職員がご家族の意向を確認し、ユニット会議にて介護支援専門員、ユニット職員、多職種で意見を出し合い作成した。ご家族の行事も確認はしていたが、コロナ禍ということもあり、自宅で行われたご主人の法事に参加する程度のものであった。



【彩の郷】理念：一人一人の人生のように、彩のある暮らしを支援できるユニットをつくり
ます

○目標1：利用者の「日々の楽しみ」に繋がる活動を支援する

利用者の性格を把握すると同時に、利用者同士の関係性を考慮しながら、孤立することなく利用者同士の会話が弾むような活動の場をつくる。

- ①利用者それぞれの性格や好みを知るため、担当者がご家族に聞き取りを行う。6か月に1回の介護計画書の見直しの際に、現状の報告だけでなく、ご家族からの意見やアドバイスを頂くことで、利用者の性格を把握し活動時に役立てる。

《結果》

各利用者の担当者が、介護計画書の見直し前にご家族に聞き取りを行った。ご家族から具体的な希望等を聞き取ることが難しいことが多かったため、ユニット会議で職員が思う本人の希望を話し合い計画書に反映させた。

- ②行事を開催する際には、実施日までのカウントダウンカレンダーを作成し、利用者が忘れず、楽しみにして参加して頂くようにする。

《結果》

行事企画が計画的にできないことが多く、カウントダウンカレンダーの作成までに至らなかった。しかしながら、急な行事でもご利用者は喜んでくださり、次の行事のことを楽しみにされる言葉が聞かれたので、次年度もカレンダーではなくても予定がわかる工夫をしたい。

- ③月1回のイベントを実施し、外出ができない月でも施設内で楽しむことができるようにする。インターネットやプロジェクターを活用し、シェルターでの映画鑑賞や、旅行に行った気持ちになれるような県外の観光地等を放映し、ご当地のお菓子等を取り寄せて「プチ旅行気分」になれるイベントを行う。

《結果》

プチ旅行気分になれるイベントはできませんでしたが、例年、ご利用者に好評の「果実酢づくり」、「誕生会で焼肉パーティー」、「みかん狩り」等、全員で楽しめるイベントと個別支援のイベントを実施しました。

- ④イベント開催時には、ご家族を招待し一緒に楽しんでもらうことで、利用者との思い出をつくって頂く。

《結果》

コロナ禍ではありましたが、施設が面会制限を解除した期間や看取りケアの期間には、ご家族と一緒に楽しんで頂きました。一緒に最期のドライブに行ったり、自宅の畑のみかん狩りに連れて行ってもらったり、「今できる支援」として私たちも思い出ができた。

○目標2：職員の危機管理能力の向上（事故防止）

利用者の事故を未然に防ぐため、日々の状態の些細な変化をユニット職員で共有し、対応が遅れないよう努める。

- ①日々の些細な利用者の変化を記録に残し、ユニット職員で共有する。朝、夕の申し送り時に、利用者の変化について話す時間をつくり、各々が気になっていることについて共有する。
- ②ヒヤリハット報告を各職員、毎日1つは記録し、ユニット会議にて評価を行う。毎月、各利用者に想定される事故を必ず1つは考えて事故防止の対応を行う。

《結果》

彩では、3件の骨折事故が発生した。ユニット会議では、ヒヤリハットの評価を行っていたが、対策ばかり話し合い、利用者の行動に対する予測の検討が足りなかった。職員は、「ヒヤリハット」の報告・記録に取り組んでいたが、それを最大限に活かすためにも、次年度は、ユニット会議で危険予知トレーニングなどを用いて危険要因と引き起こす現象を話し合う時間を作る。

○目標3：利用者も職員も快適に過ごせる環境をつくる（整った空間・設えの工夫）

共同生活の場、個人の空間の両方があるユニット内で、利用者も職員もどこにいても快適に過ごすことができる空間をつくる。

- ①「環境整備チェックリスト」を作成し、利用者の居室を担当者が責任を持ってきれいに保つようにする。清掃、整理整頓、壁の飾りもの等にも配慮し、誰が見ても「利用者が大切にされている」と感じることができる空間にする。

《結果》

「チェックリスト」を作成し活用していたが、時間が経つに連れてチェックがなくとも実施していることが多くなったため、「掃除」も業務の一つとして職員に定着したと判断した。壁飾りや棚の上の整理など、各利用者によって違う細かな部分はまだ行き届いていないので、次年度も継続して取り組みたい。

- ②ユニット会議の議題の中に、「環境整備について」という項目を毎回入れ、各居室の気になるところや、ユニット内での整理整頓について話し合う。施設長や多職種から客観的な意見をもらう。

《結果》

ユニット会議では、環境整備や設えの気になることについてリーダーより提案があったが、他職員からの積極的な意見は少なかった。多職種からの客観的な意見はあっても実際に取り組む職員の意識向上を目指し次年度は取り組みたい。

- ③体験：職員が利用者の居室で24時間を過ごし、居室がどのような空間であれば落ち着いて生活ができるか体験し、空間づくりに活かす。(空床時に実施)

《結果》

体験については実施することができなかったが、看取りケアの際には、ご利用者とご家族が穏やかにゆっくり過ごせる居室づくりに努めた。畳ベッドやソファ、飲み物類を居室に設置し最期の時間を過ごして頂いた。



【結の郷】理念：ご家族、地域、利用者をつなぐ架け橋となり、安心して過ごすことのできるユニットをつくりたい

○目標1：認知症の利用者が穏やかに過ごし、その瞬間だけでも楽しく過ごすことができるよう支援する。

- ①毎月、季節の植物や野菜を育て、利用者と一緒にその成長過程の作業や収穫をすることで、昔の仕事を思い出したり、季節を感じて頂く。また、その野菜を使ってユニットで食事をつくり提供する。

《結果》

ベランダにプランターを置き家庭菜園を作った。きゅうり、ミニトマト、スイカ等、ご利用者が成長を楽しみに見守り、収穫、料理まで実施できた。

- ②手作業ができる利用者に対し、様々な手作業の準備を行う。利用者それぞれが興味を示す、又はできる作業を見つけ、創作したものをユニットに飾ったり写

真に撮ってアルバム作成をする。

《結果》

入所前に木目込みをしていたという方に、もう一度チャレンジして頂いた。右上下肢麻痺のある方なので、左手のみでの作業だが作業療法士と協力し、何枚もの作品を完成させることができた。作品をユニットの壁にまとめて飾り喜んで頂いた。

③重度の利用者に対し、車いす上での姿勢や、ベッド上でのポジショニングを整え、苦痛なく過ごして頂くよう職員の観察力やスキルアップを目指す。

- ・機能訓練指導員の指導のもと、全利用者の車いす、ベッド上でのポジショニングの確認をする。
- ・確認をしたポジショニングを、全職員で共有し、写真や動画を保存することで、常に正しいポジショニングができているか毎日確認する。
- ・客観的な視点からチェックをするため、機能訓練指導員や看護師等、多職種からのチェックをしてもらう。

《結果》

全介助の必要なお利用者や拘縮のある方、看取り期の方へのポジショニングを機能訓練指導員の指導のもと確認をしながら支援を行った。ユニット職員及び夜勤者が目で見てわかるよう写真を撮り居室に掲示する等の工夫をした。時に処置等に入る看護職員からのアドバイスもあり、その都度、変更を重ねてご利用者様の安楽な姿勢を心掛けた。

○目標2：利用者のご家族、職員が信頼関係を築くことができる環境をつくる

①担当利用者のことを理解し、信頼関係を築くため、利用者やご家族への聞き取りを再度行い、入所時に作成しているフェイスシートを更新し、ユニット独自のシートを作成する。更新した情報をユニット会議で共有する。

《結果》

介護計画書の見直しの際にご家族への聞き取りを行い、新たな情報を追記していたが、ユニット独自のシートの作成までには至らなかった。新しくなった電子カルテ内のシートを活用しながら次年度も継続して取り組みたい。

②ご家族との情報共有のため、毎月、担当職員よりご家族宛てに写真付きの手紙を書き、請求書に同封する。日頃の状況をお伝えすることで、ご家族に施設内の生活の様子を感じて頂けるよう努める。

《結果》

各利用者の担当より、写真付のメッセージを請求書に同封した。コロナ禍であったため、楽しみにされているご家族もおり、「毎月、写真も見ているから安心していきます。」との言葉も頂いていた。





【ショート】理念：ご利用者様の別荘のように、快適に過ごして頂けるユニットをつくり
ます

○目標1：利用者が意欲的に楽しく健康に過ごして頂けるよう支援する

コロナ禍で利用者の帰宅や外出が困難になり、必然的に施設内での生活が多くなっており、家族とも交流が少なくなることで心身の低下を引き起こすため、施設内でも楽しく健康に満足した生活を送っていただく取り組みを行う。

①季節の行事

- ・その月にまつわる行事を行うことで季節を感じてもらう。

(例) 節分、七夕、クリスマスなど

《結果》

季節行事開催：桜花見（4月）、菖蒲花見（6月）、七夕（7月）、納涼スポーツ大会（8月）、コスモス花見（10月）、クリスマス（12月）、初詣（1月）、節分スポーツ大会（2月）

上記の行事にて季節を感じてもらえるような取り組みを行った。調理レクやスポーツ大会にも要素を織り交ぜて行う月もあった。

②健康づくり

- ・年4回（春夏秋冬季）スポーツ月間を設定し、スポーツ大会を開催。それぞれ1~2名程度を担当者として設定し、行う内容（形式、種目数、個人戦や団体戦など）を月初めまでに決定しユニットに周知し準備を行う。大会への練習や体操レクを月内に重点的に行うことで利用者の健康を維持する。

《結果》

開催：5月…牛乳パック積み木タワー、玉入れ、ボール運び競争

8月…牛乳パック積み木タワー、的あて、魚釣り

11月…乾布摩擦、マジックハンド玉入れ

2月…ストレッチ、鬼退治ボール投げ

実行委員長を1名選定し、年間を通して企画、実施した。実施に関して、内容の周知に課題があり、当日の流れが不明な点があった。練習についても、マンネリ化して利用者が飽きている場面も見られていた。それでも楽しく競技を行えたという印象で、今後もレクリエーションを通じて健康を維持していくことを期待する。

③食事・調理レクリエーション

- ・年4回（春夏秋冬季）調理レク月間を設定し、季節に応じた食事やおやつ、利用者からのリクエスト食を提供する。それぞれ1~2名程度を担当者として設定し、月初めまでに提供内容（リクエスト食の選定、作業割り振りなど）を決定しユニットに周知し準備を行う。食事に使う食材を利用者と一緒に育てたり、利用者と一緒に調理することも検討し、利用者の心の健康を維持する。

《結果》

開催：4月…花見弁当

7月…うどん、いなりずし、フルーツポンチ

8月…プリンアラモード

9月…おはぎ

1月…ぜんざい

上記の月に職員手作りの品を提供した。利用者からのリクエストを聴くことが少なく、職員が企画して調理することが多かった。使用する食材を育てることもなく、利用者と一緒に調理することもなかったため、今後はリクエストを聴き、利用者が以前得意としていた料理と一緒に調理するなど、個別支援として実施していきたい。

④SKVT（ショートステイかがやきバーチャルツアー）

- ・ 昨年の敬老会で好評だったプロジェクターを使用したバーチャルツアーを開催。VR機器なども試用し利用者の思い出の地や観光地を巡る楽しい旅行にご案内！観光地にちなんだ味、匂い、音（お菓子など）などで臨場感あふれる旅行気分を楽しんでもらう。敬老会時期など年1回以上の開催を予定。

《結果》

敬老会にてバーチャルツアーを開催した。テーマは地元長崎見学で、観光名所を巡り、おくんちの出し物として龍踊、コッコデショ、本踊り？を披露した。「おくんちに諏訪神社に来たついでに月見茶屋でおやつ」と銘打って職員手作りのおはぎを召し上がってもらった。

バーチャルツアーが目玉のはずだったが、おくんちの出し物披露の方が盛り上がり、趣旨がずれてしまったが、利用者の皆さんが喜んでくれたので良かった。

⑤ご家族との交流

- ・ 利用者のひと月の様子を用紙にレイアウトし、ご家族へ郵送することで交流を得る。イラストや写真を添付し利用者担当職員がコメントを書くようにする。
- ・ ご家族にLINEへのともだち登録協力をお願いし、LINE通話面会を活用する。

《結果》

ご家族へは生活や行事参加の様子を写真付きの用紙に職員からのコメントを添えて1か月に一度送付している。今後も継続して行う予定。

LINEのともだち登録協力は進んでいるが全体ではない。引き続き協力をお願いする。新しく入所される方には、入所説明の際に協力を呼び掛けていく。

⑥誕生日会の充実

- ・ 利用者の誕生日会に装飾や飾り付けを充実させ、ご家族からの手紙や動画を流すなどを準備しプレゼントすることで利用者が孤独を感じず、満足した誕生日を迎えるようにする。

《結果》

誕生日会にLINEのテレビ通話でご家族にお祝いを伝えてもらった利用者はいたが、全員はできなかった。手紙の協力も行えていなかった。

《開催行事》

4月	春の調理レク 花見	10月	秋のスポーツ大会
5月	春のスポーツ大会	11月	コスモス見学
6月	菖蒲見学	12月	クリスマス会

7月	七夕 夏の調理レク	1月	冬の調理レク 初詣
8月	夏のスポーツ大会	2月	冬のスポーツ大会 節分
9月	敬老会 (SKVT) 秋の調理レク	3月	ひなまつり

○目標 2 : 職員のスキルアップ、技術や知識向上を図る

①利用者それぞれの居宅介護サービス計画書や生活状態に基づき、詳細な個別の介護計画書を担当職員が作成、見直し、発信を行っていく。

《結果》

担当の職員がそれぞれ利用者の生活状態に合わせた介護計画書の作成、見直し、更新を行っていた。今後は照会やサービス担当者会議への参加を促していく。

②職員がそれぞれの担当利用者の生活状態や病歴、内服薬を把握し、主治医やご家族への連絡などを通すことで「その人」のスペシャリストとして機能していく。

《結果》

介護計画書の作成や薬の仕分け、ADL 表の作成を通じて利用者の理解を深めていっていると感じた。なんでも知っているスペシャリストにはまだまだ努力が必要と思う。

③認知症への理解を深める。

対象職員について、専門的な研修の受講を促していく。

(認知症実践者研修、実践リーダー研修等)

《結果》

今年度中に認知症実践者研修の受講を 1 名の職員に行ってもらった。来年度にも対象者には参加の声掛けを行っていく。

④施設外の研修に参加し、ケアワーカーとしての質、知識の向上を目指す。年度研修希望に沿う形で参加してもらい、研修で得た内容をユニットや施設にフィードバックするように努める。また、事前にユニット内で年度内の研修希望を把握しておくことでユニット職員皆で声を掛け合い、研修参加を促していく。

《結果》

中山：高知県ノーリフティングケアフォーラム

西田：認知症介護実践者研修

井手：高齢者住まい看取り研修

森：アロマセラピー研修

宮崎：未受講

1 名の職員に関しては、研修の開催と時間の都合が合わずに未受講となった。来年度は全員希望研修受講を目指す。

○目標 3 : 職員間のハウレンソウ（報告・連絡・相談）を徹底する

①出勤後のクイックケア内の記載記録の確認、情報収集の徹底を行う。事業所の特性上、情報や予定の急な変更も多いためそれに対応できるよう情報共有を迅速に行う。

《結果》

その日起きた出来事や情報を詳しく記録に残し、SNS を通じて職員間の情報共有を行ってきた。今後は新しい記録ソフトも導入されるため、使用方法を深く理解し、情報共有に努めていく。

②施設内外の多職種（相談員・かかりつけ医・看護職員・介護支援専門員・管理栄養士・OT など）との情報共有に努める。誰がどのような内容の情報を共有したのか、必ず記録に残し共有する。

《結果》

各職種とは相談を行っていたが、相談の細かい内容を記録することが不足していたと思う。また、ユニット会議の際に事前に相談を行ってから結果を議題にあげなければいけないところを、相談を後手にまわしたために利用者への対応が遅くなってしまった。

③同一フロアである特養陽の郷ユニットとの情報共有を密にし、速やかな連携を目指す。お互いに関連性のある情報を記載したノートの共有やクイックケアの確認を行うようにする。

《結果》

今年度上半期は隣のユニットとの情報共有がうまくいかずに伝達の漏れがあっていたが、下半期は互いのユニットの会議録を確認したり、ノートの活用、記録の確認ができていたと思う。今後はユニット間の入れ替えがあるため、再度伝達と連携を啓発していきたい。



(7) 他職種の目標

1) 看護職員

○目標1：利用者の体調の異常を早期に発見する

- ①利用者の体調変化を見逃さず、全身状態の観察に努め、嘱託医との連携を取る。
- ・ユニットに滞在し常に利用者の様子を把握する。
 - ・介護職員と一緒にオムツ交換や浴室に入り、様子を観察する。
 - ・気になることは介護職員に伝達し、夜間帯であれば介護職員から動画や画像で情報の共有を行う。

《結果》

看護職員間および中尾先生との連絡、相談は、電話、LINE、電子カルテを使い互いに信頼をもって適宜できていた。その要因としては、看護職員は常にユニットに滞在し、ご利用者の様

子を把握した。また、介護職員とのオムツ交換や入浴時に浴室に入ること、全身状態を目で確認し的確な判断をできるよう努めた。

看護職員は夜勤業務がないため、気になることは必ず介護職員に伝達し、夜間帯は電話だけでなく画像や動画にて正確で迅速な情報の共有をした。

- ②利用者にかかわる病歴、疾患等のデータを把握し、必要時に対応できるよう日々整備する。

《結果》

ご利用者の既往歴について入所前の情報の把握はできているが、入所後の新たな疾患等については整備できなかった。電子カルテも変更になったので次年度は新たに入力作業を行い更新していきたい。

○目標2：更なる看取りケアの充実

①多職種協働の看取りケア（食事）

- ・看取り期前よりユニットで利用者の好きなものについて情報収集し、ご家族も含め、食事の摂り方について考える。
- ・好きなものを、好きなだけ、好きな時間に食べる多職種協働の体制づくり

《結果》

看取り期には、ご家族にご本人の好きな物を再度確認し、嚥下が困難なご利用者にも形態を変えて可能な限り提供した。好きなものを、好きな時間に食べるという支援は、常時、業務がある介護職員だけでは困難であるため、看護職員、機能訓練指導員も協働し、ご家族と一緒に取り組んだ。

10月後半より食事介助する職員が特定の人に偏らないよう表を作成し意識していった。各人が食事介助をする中で検討したい内容が出てきたことで、カンファを設けることもあり、来年度も継続していきたい。

- ②看取り期の利用者の「状態チェックリスト」を継続し、介護職員が看取りケアを行う際の自信となるようサポートする。また、どの職員でも同じように観察、判断、報告ができるように。

《結果》

「状態チェックリスト」の活用は継続できている。看取り期について、介護職と看護のずれを感じることもあるが、このチェックリストを使用開始することで看取り期開始という共通認識ができているように思う。次年度も継続していきたい。

③ご家族のサポートを介護職員が誰でもできるようになる。

- ・ご家族向けのパンフレットの作成
- ・介護職員のパンフレットの理解を深めるための勉強会の実施。

《結果》

ご家族向けの看取りパンフレットを作成し、看取りケアに入るご家族へ担当看護師から説明を行うことで看取りへの心構えをサポートした。しかし、この説明については担当看護師のみの対応となり、介護職員が同席する等の対応はできなかった。入所時の看取りについての説明は担当介護職員も同席することが定着してきているので、看取りに入る際のパンフレットの説明についても次年度はリーダー又は担当介護職員と共に対応していきたい。

○目標3：誤薬ゼロを目指す

○ダブルチェックの徹底

- ・時間によっては与薬する際に介護職員が一人の時もあるため、利用者本人と声を出して確認することを徹底。事故委員会とも協力し、介護職員の意識を高める。
- ・内服薬の変更時は、看護師同士のダブルチェックを徹底。また、変更があった内容について、電子カルテに記載し介護職員へ伝達する。

《結果》

誤薬事故 1件

この事故を受けて対策について検討を重ね服薬マニュアルの見直しを行った。それまでは電子カルテでの服薬チェックだったものを、一旦、ペーパーのチェック表に戻しその場ですぐにチェックし確認できるものとした。また、看護師であっても与薬する場合はその場にいる他職員とのダブルチェックを徹底している。

○目標4：介護職員の喀痰吸引実地研修の実施

喀痰吸引対象の利用者が入所した場合には、速やかに実施する。

《結果》

喀痰吸引が必要な利用者の入所がなかったため未実施。

【年間業務内容】

- ・利用者健康診断（胸部レントゲン撮影）・・・12月実施
- ・利用者血液検査・・・月実施
- ・インフルエンザ予防接種・・・11月実施
- ・肺炎球菌ワクチン接種・・・対象者別で接種
- ・職員健康診断後の指導・・・5月(全職員)、11月(夜勤者)

2) 機能訓練指導員

○目標1：利用者の身体機能維持にむけた取り組み

- ①特養利用者全員の心身機能、生活状況を把握し、個別機能訓練計画を立案する。
(3か月おきに評価を行う。)
- ②介護職員と情報交換を行い、利用者の機能維持ができるよう生活リハビリを行う。また、必要に応じて個別機能訓練を実施する。
- ③利用者が気軽にできる運動の用具やレクリエーション道具を準備し、活動量の向上を図る。

《結果》

3か月おきの評価、プラン立案は実施できている。日々の会話の中やユニット会議内で利用者の心身機能・生活状況の把握はしている。利用者の心身機能・生活状況の把握は行っているが全員に対し十分な意見交換ができていない部分もあるため、来年度は利用者担当職員とより情報交換を行い、利用者の状態把握や生活リハビリの提供を行う。

○目標2：「ノーリフトケア」の実施にむけた取り組み

- ①長崎県ノーリフティングケアモデル事業で学んだことを活かし、かがやきでのノーリフトケア実現に向け、評価、検証を継続して行う。

②介護ロボット委員会を通して、利用者の介助方法の見直し、再検討を行う。

《結果》

株式会社あわや様の年間研修がスタートし、かがやき（特養・ショート）職員全員がチームに分かれて研修を受けている。ノーリフトケアを勉強する前はリフトなどの機器使用に消極的な職員が多かったが、現在は特養 3 ユニット床走行式リフトを導入し、リフトでの移乗介助を行うと、職員の意識にも変化があった。職員の方からリフト移乗を希望することも出てきた。

あわや様の研修で学んだことを職員が各ユニットに十分に伝達できていない。来年度は各ユニットにしっかり伝達できるよう仕組みを作っていくといけないと思う。

ノーリフトケアを行う目的が職員の負担軽減のみとなってしまうまいよう、なぜノーリフトケアを行うのかを常日頃職員へ伝えていく必要があると感じている。

○目標 3：褥瘡予防・拘縮予防に努める

- ①利用者の車椅子座位姿勢、ベッド臥位姿勢の評価を行い、車いすシーティングとベッド上ポジショニングの見直し、介護職員への伝達を行う。
- ②褥瘡予防クッション等の備品を整備し、褥瘡の早期対応、早期治癒ができるよう努める。
- ③褥瘡予防委員会と連携し、利用者の日中の座位姿勢に対する介護職員の意識の向上と褥瘡予防に努める。

《結果》

車いす姿勢やベッド上姿勢の評価は適宜行っている。日中の座位姿勢に関してもNsと意見交換し、ユニット会議等で情報共有している。

評価用クッションの整備は充分に行えておらず、評価に時間がかかることもあった。来年度は評価用クッションを整備し、早急に対応できるようにする。

○目標 4：多職種連携に努める

- ・日々、多職種との情報交換を行い、利用者の状態変化の把握に努める。
- ・ユニットに滞在し、機能訓練以外でも食事介助や口腔ケア等、介護職員の業務を一緒に行い、利用者によく関わることで密な情報の共有に努める。

《結果》

NsとOTとの合同カンファを月 1 回開催するようになり、Nsと情報共有し、その後のユニット会議にて介護スタッフへの情報共有を行っている。

看取りの方に関してはOTとしての関わりが充分にできていなかったケースもあった。看取りに対するOTとしての関わりを学び、来年度はより積極的に関わりたい。



3) 管理栄養士（栄養マネジメント）

○目標1：季節の行事食の提供

月に1回を目標とし、行事食を提供することで季節を感じていただく。季節ごとの祝い料理（おせち、恵方巻など）の提供、“選択食”や“バイキング”を取り入れるなど、食を楽しんでいただけるような内容にする。

また、2か月に1度“行事食だより”を発行し、ご家族様にも行事食提供の様子をご覧いただけるようにする。

《結果》

月に約1度のペースで、年間11回の行事食の提供を行った。節句にちなんだ料理や旬の食材を使った料理を提供し、季節の感じられる食事を味わっていただくことができた。今年度は“選択食”や“バイキング”といった形式は取り入れることはできなかったが、行事食を心待ちにしてくださる様子が伺えた。来年度は厨房職員の得意を活かし、ユニットを巻き込んだ行事食の提供を計画・実施していきたい。

2か月に1度“行事食だより”を発行し、ご家族様にも行事食提供の様子をお伝えすることができた。今後も継続していきたい。

○目標2：思い出食イベントの実施

利用者様ご本人やご家族からの聞き取りにより、利用者様の“思い出の食べ物”と一緒に再現する調理イベントを、月に1回を目標として開催する。また、利用者様の思い出の料理やイベントの様子をご家族様とも共有する。

《結果》

6月に一度だけ、「梅干しづくり」を実施することができた。昨年度は人員が不足しており、毎月実施することは難しかった。思い出食イベントの実施については、今後見直しが必要であると感じた。

○目標3：ムース食の提供の開始

かがやきで現在提供している常菜・一口大・刻み・極小・ミキサーの5つの食事形態のうち、刻み・極小刻みに代わり“ムース食”の提供を開始する。

導入に向けて以下のような取り組みを行う。

- 4・5月 厨房にてムース食試作
- 6月 給食会議にてムース食の試食会
- 7月 ムース食提供対象者の選定・ムース食調理作業工程の考案
- 8・9月 週に1回昼食のみムース食の提供開始
- 10・11月 毎日昼食のみムース食の提供開始
- 12月 毎食ムース食の提供開始

《結果》

刻み・極小の食事形態の需要があるため、実際に作業工程に組み込むことが難しく、ムース食の提供を実施することができなかった。ソフト食提供するには多方面での課題があるため、次年度も検討を重ねたい。

○目標4：KT バランスチャートの活用

特養入所者全員を対象としてKT バランスチャートを用いた摂食嚥下機能についての評価を6か月に1度行う。評価が2以下の項目が見られた利用者様については改善に向けて体操やマッサージなどを行い、3か月に1度KT バランスチャートを用いた評価を行う。

《結果》

栄養士が欠員状況にあり、実施に至らなかった。KT バランスチャートは栄養マネジメント強化加算算定に必須でなかったことから、実施を見送った。加算算定に必須である食事状況の観察を優先的に行い、利用者の食事・身体状況の把握に努めた。

○その他

◎職員が受講した研修

- 渕上：外部施設見学(ほっとキッチン)
- 甲斐：外部施設見学(ほっとキッチン)
- 浦田：接遇とマナー、障がいと合理的配慮
- 小川：がん患者が受けるやさしい虐待
- 田中：介護と仕事の両立
- 宮崎：介護と仕事の両立
- 岩永：障がいと合理的配慮



2、看取りケアの充実

○令和4年度 看取り件数：12名

(1) 看取り研修の実施

- ①施設内研修の実施（看取りの振り返りを含む）

《結果》

施設内研修は3月に実施し、看取りに関する内容や、年度内のかがやきでの看取りケアについて報告や振り返りを行った。1年を通して介護職員の成長を確認する場となり、自信ややりがいにつながっている。

- ②ご家族を対象とした看取りに関する勉強会【報告会】の実施（年2回）

《結果》

ご家族には年6回の運営推進会議にて毎回看取りケア報告を行った。参加されたご家族からは「かがやきの看取りケアがわかった。先のことをこんなにも考えてくれていることで安

心した。」等の感想を頂いた。

(2) 看取りの指針・マニュアル・パンフレットの作成（見直し）

- ①看取り指針・マニュアルを随時見直し、勉強会で全職員に周知することで、新人職員を含む全ての職員が、不安なく看取りケアを実践できるようにする。かがやきの看取りを理解し、自信を持って看取りケアができるようになる。

《結果》

指針・マニュアルは、勉強会にて職員に周知した。職員は年間 10 名を超える看取りケアを通して学び不安なく看取りケアをできるようになってきている。指針等の見直しについては、今後も年 1 回の勉強会の内容に組み込み実施する。

- ②ご家族向けのパンフレットを作成し、看取り期の状態の変化や心構えについてご家族に理解をして頂くようにする。また、その説明を看護師だけでなく、介護職員もできるようにする。

《結果》

ご家族向けのパンフレットは作成し活用した。看取り期の状態の変化や心構えについて、職員からの口頭説明だけでなく、自宅にて家族間でゆっくり考えることができるように声をかけ、実際に親族で集まり話し合ったというご家族もいた。しかしながら、看取り期の状態の説明を介護職員が行うまでには至らず、来年度はリーダーからその役割をできるように学ぶたい。

(3) 看取りケア期間中の支援

- ①看取り前の多職種カンファレンスの実施の継続。利用者、ご家族、主治医と、施設的全職種が参加することで、施設全体で共通認識のもと看取りケアに入る。

《結果》

看取り前のカンファレンスは、ご家族、先生、看護師、施設長というメンバーの開催が多かったように思う。カンファレンスが数日前に決まることもあり、連絡調整や参加の声かけに不足があった。次年度はこのカンファの時に OT、栄養士さんからも看取り期での具体的な対応をご家族に提示できるよう、参加の調整の徹底をしたい。

- ②看取りケア中の利用者の整容や居室の整え方の工夫と充実。ご家族が面会に来られた際に、安心して穏やかに過ごして頂くために。

《結果》

ご家族が泊まることができ、過ごしやすいようソファや畳ベッドを居室の中に設置する等、居室の整え方についてはいずれの看取りのタイミングでも良かったと思う。看護師が声をかけなくても介護職員が積極的に考えてくれていた。

- ③利用者やご家族の最期の希望（心残り）を聴き、互いの想いを共有することで、想いに寄り添う。また、可能な限り希望を叶えられるよう支援する。

《結果》

どの看取りケアの際にも、介護職員、看護職員、それぞれの立場でご家族の想いを共有する

よう努めた。「最期まで点滴をしたい」、「少しでも口から何か食べさせたい」、「親族に会わせたい」等、コロナ禍ではあったが、ご家族の想いを最優先し支援した。

(5) 看取り後

①振り返りの会：ユニット会議にて看取りケアの振り返りを行う。ケアの反省や課題の抽出。職員の心理状態やご家族の様子等を共有し、次の看取りにつなげる。

《結果》

振り返りについてはユニット会議にて議題にあげてはいるが、時間が十分にとれないこともあるため、アンケート形式でも意見を収集している。振り返りの反省は次につながる貴重な意見がでるので今後も継続していきたい。

②精霊流し：前年に看取りをした利用者の供養の意を込め、職員全員で精霊流しをする。職員手作りの船を作り、ご家族や地域の方にも声をかける。

《結果》

職員手作りの船を作成し、当日は施設内を回りご利用者の皆さんにも見てもらった。手を合わせられる方もおり、お盆のひと時を過ごした。事前に精霊船で供養をさせてもらうことを連絡していたご家族が供養のお花や、お茶やお菓子の差し入れを持って声をかけに来てくださった。コロナ禍ということで地域の方との交流はできなかったが、毎年恒例となる精霊流しができた。



③一周忌のお手紙：一周忌に葉書を出し、ご家族と共に故人を思う時間をつくる。

《結果》

一周忌の方全員へのお手紙を送付することはできなかったが、送付したご家族からは感謝の言葉の返信を頂いた。次年度はユニットからお送りすることができるよう準備をしたい。

④退所された後も、施設イベントの案内を送付し参加して頂くことでつながりを継続する。

《結果》

コロナ禍のため、イベント開催が難しくご案内ができなかった。次年度は施設のイベントだけでなく、「み館」で開催されているイベントも含め、ご案内をしたい。

(6) 看取りケアの発信

○看取りケアの事例について、積極的に発表する場をつくる。

2か月に1回の運営推進会議で、報告を行う。その他、各種協会等の募集があれば積極的に応募し、取り組みを発信することで職員のやりがいにつなげる。

《結果》

運営推進会議では、毎回、看取り報告行うことができた。ご家族や他出席者からも「毎回、興味のある報告」との感想を頂いているので、次年度も継続して報告したい。

～看取りケア報告～

『母ちゃん！ 気をつけて逝かんばよ！！』

○利用者：A様（99歳・女性・要介護4） ご利用期間：6年

・A様は、天草の方で、介護が必要になってから、子供達が住む長与にいられた方でした。「豆つくりの名人」と呼ばれるほど、畑で野菜を作るのが上手だったと、次女様が話してくれました。優しく、穏やかな、辛抱強い方だったと思います。

・次女様が、福祉施設に勤めていたことから、コロナが流行する前は、毎日、仕事帰りに来られ、A様の食事介助、口腔ケア、トイレ介助等、職員と一緒にして下さっていました。

・次女様は、A様の体調が悪くなったら、いつも入院治療を希望されていたので、A様をとてとても大事にされていたことは感じていましたが、印象的だったのは「**母ちゃんが死んだら、私も死のうかな。**」という言葉でした。いつも明るく元気な次女様ですので、そんな言葉が出た時は、職員も驚きでした。

・次女様が毎日来られていた時期は、A様も元気だったのですが、コロナが流行すると同時に、徐々に食事が減っていきました。99歳という年齢を考えれば、自然の流れではありますが、次女様と会えない間に元気がなくなり、次女様がショックを受けるかもしれないと心配になりました。次女様に状態を理解して頂いた上で、A様にしてあげたいことがあるかもしれない、**次女様に後悔してほしくない！**と職員の思いを、お話することにしました。

・次女様の答えは、「もう99歳ですよ。無理して食べなくて良いです。良く頑張ったと思います。職員さん達も気にせんで、食べれるだけ食べさせてもらえば良いですよ。色々な工夫をしてもらっていることはわかっていますから。私も本人のストレスになることはしたくない。」という言葉でした。

・私達から、コロナ禍ではあるが、A様のために、以前のように面会に来てほしいことをお願いしました。「私だけ特別に良いんですか？こんなに考えてもらって感謝です。」と涙されました。

・その日から、次女様が面会に来られるようになりました。「**無理して食べるで良かと思っても、あと一口って思ってしまうもんね。**」と言いながら帰られた時もあります。A様が確実に看取りケアに入っていることを次女様も十分にご理解されていたと思います。

・次女様とお話をした3か月後、お別れの時は静かに訪れました。呼吸が変化したことをすぐに次女様へ連絡し、駆け付けた次女様は、「良か、良か、良う頑張った。母ちゃん、良う頑張ったね。」と声をかけられました。兄弟姉妹が揃い、A様のベッドを職員も一緒に囲み、みんなでA様の身体をさすって声をかけました。

・呼吸数が減っていく中、次女様が「**母ちゃん！気をつけて逝かんばよ！！**」と。

今までの看取りで、初めて聴く言葉でした。次女様が本当にA様のことが大事で大好きで、子供達みんなが同じ気持ちであることが、その雰囲気から伝わりました。

・A様の看取りは、次女様から「感謝しかないです。」と言われ、私達も感謝でいっぱいでした。

3、総合的な介護技術の向上

(1) 職員一人一人の介護技術の向上

- ・経験年数や国籍に関わらず、全ての職員が統一した介護技術をもって業務を遂行することができるようになる。互いの介護技術のチェックと振り返りを行い、常に技術の向上を目指すシステムを構築する。

(生活向上委員会、アセッサー評価表等の活用)

《結果》

移乗介助時の打撲や皮膚剥離事故があった際には、対応する職員の介護の仕方について確認し、安全を第一に考えた方法に統一を行った。体格や力の差によって介護方法が違うことがあるが、移乗用リフトを使用する等して、統一した介護技術を提供できるよう努めた。

委員会が動くよりユニット内での動きが早く、各ユニットの利用者に合わせて、それぞれが検討を重ねた結果となった。

(2) 接遇やマナーの向上

- ・利用者に対する接遇やマナーの質の向上を目指す。法人内の他部署や、外部講師からのチェックや評価を受け、ユニットや施設全体の接遇やマナーについて振り返り、課題や対策について学ぶ。常に、自身の接遇について意識し、職員同士で前向きに意見を言い合える、利用者にとって心地よく快適に過ごせる環境をつくる。

《結果》

接遇に関するチェックや評価までは実施できなかったが、ユニット会議内でご利用者に対する言葉使いや対応について検討をすることがあった。職員同士で意見を出し合うことについては互いの関係性を考え難しいことが何え、外部講師の必要性が高いため、次年度に再度計画したい。

(3) 事故防止対策

- ・各種事故を予防するため、事故防止委員会が中心となって対策を行う。
- ・皮膚剥離事故：保湿ケアを重点的に行い成果をあげている。車椅子やベッド等の保護剤の設置等、継続して行い皮膚剥離事故ゼロを目指す。
- ・転倒事故：ヒヤリハットの報告件数の増加に取り組む。事故委員会の目標を「転倒・骨折事故ゼロ」とし、職員一人一人がヒヤリハットに意識して取り組むよう勉強会を実施した。その中で、事故件数に対しヒヤリハット報告件数が少ないことから、今年度はヒヤリハット報告を確実に言い、そこから導き出される事故の防止につなげていきたい。

《結果》

前年度から継続して保湿ケアに努め、皮膚剥離事故予防に努めた。入浴後の全身保湿、オムツ交換時の保湿等、介護、看護職員が協力して積極的に取り組んだ結果、定着している。

車椅子の移乗時の打撲等を予防するため、スタンダード型の車椅子を2台、跳ね上げスイング式に入替えた。

ヒヤリハットの報告をユニット会議で行い対策を検討したことで、具体的な予防策を多職種で共有できた。全体勉強会で事故委員会より声かけありヒヤリハットの報告件数も伸びていたが、コロナ感染クラスター対応後に減少していることがわかり、再度、声かけを行い意識的な取り組みに努めた。

4、入所稼働率の安定

《結果》

＜特養＞

【実績】

目標稼働率	98.0 %	96%
設定稼働率	96.0 %	
設定平均介護度	4.0	4.1

入院：延べ 187 日（月平均 15 日）
空床：合計 175 日（月平均 14 日）
空床利用：24 日

＜ショート＞

【実績】

目標稼働率	90.0 %	93%
設定稼働率	85.0 %	
設定平均介護度	3.0	3.4

《特養》

○嘱託医と連携し、疾病の早期発見・早期治療に努めた。ご家族の意向を尊重し、適切な受診対応や、看取りの説明を行った

○入院による空室を最低限度にするため、医療機関との連携を積極的に図り早期に退院できるよう努めた。また、空床利用でショートとの連携を図った。

《ショート》

○居宅介護支援事業所の介護支援専門員との連携、情報交換を行い、出来る限り空きが出ないよう 10 床をコントロールした。空きた出た場合は特養の待機者に声をかけ、ショートで特養入所を待つ頂くことで、特養への入所をスムーズにできるように努めた。



<小規模多機能型居宅介護>

事業所理念：『我が家を舞台に、24時間365日、安心できる生活』

1、組織力の強化

(1) 情報の共有

- ・引継ぎ書を活用し確実な情報共有を行う。
- ・小規模会議を月1回開催し、利用者に関すること、業務に関すること、事業計画の進捗状況を確認する。
- ・ヒヤリハット、事故報告書、電子カルテの記録を徹底し、ヒヤリハット、事故について月に1回小規模会議で事故委員より再確認する。
- ・ケアマネジャーと担当介護職員にて、利用者のアセスメントを実施し課題を把握する。「小規模介護計画書」を担当する。
- ・ケアマネジャーより小規模多機能型居宅介護の運営について勉強会を定期的実施し、知識を増やしレベルアップを目指す。

<<結果>>

- ・引き継ぎ書への情報共有は定着化した。しかし確認したが業務にいかしていない職員もあり、見たが覚えていないという職員もいるため、重要な内容を理解してもらえる工夫が必要。
- ・日勤リーダー制度でクイックケア(ケアカルテ)の入力を全員の職員で対応することができた。
- ・小規模会議を月に1回実施し、利用者様のこと、業務のこと、事業計画のことについて情報共有を行う事ができた
- ・ヒヤリハット、事故報告については、事故委員+介護リーダーの比留澤さんを中心に行い、クイックケア(ケアカルテ)への記録や小規模会議での周知を図った。
- ・ケアプランと小規模計画書はケアマネを中心に作成した。

(2) 新人教育

- ・管理者は面談を継続的に行い(初日・半月・1か月・3か月)、業務についての不安や、不明な点についての共有やアドバイスをを行う。

<<結果>>

- ・令和4年度は異動で1名が小規模スタッフとなった。面談や勉強会を定期的実施し、小規模多機能について理解を深めてもらった。

(3) 研修

- ・スタッフ全員が1年間に1回以上の研修を受け、小規模会議でフィードバックを行う。
- ・管理者は職員が希望する研修に参加できるよう研修情報を収集する。

<<結果>>

- ・コロナ感染や保育園の休園などで日勤職員数が減ったため、年度の前半に研修を実施する時間をとることが困難であった。研修修了者：7名

(4) 働きやすい環境

- ・年間10日以上の有給休暇取得を計画的に実施する。

《結果》

- ・全員5日以上の有給を取得できた。コロナやインフルエンザ、子供の体調不良などで有給休暇を取得する職員も多かったため、職場外でリフレッシュするための有給取得がとれるよう次年度は取り組みたい。

2、サービス内容の充実

(1) 訪問サービス

- ・どの職員が訪問をしても、統一したサービスが提供できるよう、「個別訪問マニュアル」を必要時には随時変更し、訪問時にはマニュアルを持参し対応する。
- ・訪問サービス件数200件/月を目指し、訪問体制強化加算の算定を行う。

《結果》

- ・「個別訪問マニュアル」を活用し、ファイルに入れて訪問をするようにすることで業務の統一を図っている。
- ・独居で食事や服薬の管理ができない方について、訪問サービスを導入している。透析送迎も2名確保できている（月水金・火木土）。
- ・訪問体制強化加算は取得していない。（200件/月・要介護にならなかったため。）利用者様の状況により、訪問サービスが必要ない方も多く、200件/月毎月のカウントは今後も難しいと思われる。

(2) 通いサービス

- ・担当を決め、月に1回の行事と誕生日会を行う。
- ・日勤リーダーにて一日の業務、記録の指示・確認を行う。レクリエーションや昼食前の体操を毎日確実に行う。

《結果》

- ・月に1回季節にあった内容の行事を担当を決め行っている。また誕生日会も行う事ができた（靴下のプレゼント、誕生日カード、誕生日ケーキ等でお祝いする）。
- ・脳トレで計算問題、色塗りやちぎり絵、手作りカレンダー作成、壁面飾りの作成など手作業を充実して実施することができた。
- ・職員数が少ない月も多かったことにより、午後からのレクリエーションが毎日実施することはできなかったが、10月以降は異動により職員の確保ができたため、毎日午後からのレクリエーションの時間をとるように心がけ、できる回数も増えている。

(3) 泊りサービス

- ・同居ご家族の負担軽減のために、登録利用者は泊りのサービスができることを周知し、在宅で少しでも長く生活ができるようにする。
- ・眠りスキャンを活用し、睡眠状態の把握や転倒防止を図る。

《結果》

- ・ご家族へ、介護負担軽減を図り在宅生活が継続できるように泊りサービスが可能であると再度伝え、泊りの数を確保できた。
- ・眠りスキャンの活用ができています。

3、ご家族、医療、地域との連携

(1) ご家族との連携

- ・介護支援専門員、担当介護職員がご家族との連絡を密に行い、ご家族が負担となっている事をケアプラン、小規模多機能介護計画書に反映させることで、利用者本人、ご家族、小規模職員が共通の課題に取り組む。
- ・送迎時や、電話での対応等、常にご本人やご家族の様子を職員間で共有する。
- ・ご家族向けに毎月「かがやき便」をお渡しし、かがやきでの様子をお伝えする。

《結果》

- ・ケアマネや介護リーダーを中心にご家族との連携を図った。その上でケアプランや小規模多機能介護計画書に反映させて課題に取り組んだ。また小規模会議でケアについて検討を重ねた。
- ・「かがやき便」を毎月郵送。利用時の状況がよく分かるとお礼の言葉を多数いただいた。

(2) 医療との連携

- ・かかりつけ医療機関への情報共有ができるよう、必要時には受診に同行する。
- ・定期受診時に必要であれば情報提供書を作成し、医療機関へ提出する。
- ・ご家族と医療についての共通理解を図る。

《結果》

- ・主にケアマネ、介護リーダーを中心に医療との連携を行った。薬や認知症状、体調についてなど相談のために病院まで付き添いも実施した。また、往診の医師との連携を丁寧に行った。

(3) 地域との連携

- ・送迎や訪問時、近隣の方への声掛けを行い、何かの時に情報や連絡を頂けるよう努める。
- ・地域交流センターかがやきで実施されるイベントへの参加を促し、そこに参加されている地域の方との交流を支援する。

- ・地域で参加している活動の継続を支援する。(自治会・老人会・習い事等)
- ・同法人の事業「みんなのまなびば み館」との連携で、地域の方との交流や、み館で使用する品物を手作りするなどの活動に参加する。

《結果》

- ・同法人「み館」との連携や、地域のイベントなどに参加し、学校、保育園との交流を行った。
(10/15 大くんち展へ 10/22 み館の教室どんぐり先生 11/5 長与町のイベントお弁当ウォーキング、活水中学校、長崎女子商業高校、のぞみ保育園 等)

4、稼働率の維持

○登録者 24 名の維持

目標稼働率：95% (23 名) 設定稼働率：87% (21 名)

《結果》

稼働率実績：(20.5 名) 85%

12月～2月に入院、退所者が連続し、1月18名、2月19名と利用者確保が困難な状況となった。相談は毎月数件あるため、今後も関連事業所、居宅介護支援事業所や包括支援センター、病院への情報提供を定期的に行い、稼働率の向上に取り組む。

<研修関係実績>

◎全職員が、研修に行きスキルアップを目指す！

	研修内容	対象職員
前年度3月	研修参加希望調査実施	全職員対象
経験3年未満	新人職員対象研修の受講 (認知症介護関連)	なし
経験3年以上	認知症介護実践者研修受講、	3名受講
経験5年以上	ユニットリーダー研修受講	2名受講
全職員対象	施設内研修会(月1回)	10回開催
全職員対象	施設外研修(公費対象1回)	26名参加

<施設内研修実績>

月	担 当	内 容
4	代表・理事長講話	「新年度 代表・理事長講話」、事業計画説明
	施設長	コロナクラスター振り返り
5	褥瘡委員会	褥瘡予防について
	事務局	ソウェルクラブ(互助会)説明
6	消防①	消防訓練(夜間想定)
8	介護ロボット委員会	「ノーリフトケアについて」
9	事故対策委員会	事故の原因と対策について
	事務局	若者サポートセンターについて
	介護ロボット委員会	電子カルテ「ケアカルテ」について
10	介護支援専門員(中山・江原)	介護計画書の作り方
11	消防②	消防訓練(昼間想定)
12	感染症対策委員会	「換気の仕方について」
2	身体拘束委員会	高齢者虐待予防について
	研修受講者(西田、田中、石寄)	認知症実践者研修フィードバック
3	生活機能向上委員会	オムツについて(ユニ・チャーム)
	看取り委員会	今年度の看取りについて

<施設外研修実績>

日付	研修名	研修内容	参加者
5/8	アンガーマネジメント	高齢者虐待防止のための感情コントロール	松尾智子
9/22・9/30	拘縮・褥瘡を予防・改善する姿勢ケア研修会	不良姿勢による健康被害、拘縮・褥瘡発生のメカニズムやそれらの予防・改善につなげる姿勢ケアを学ぶ	高村玲子
R3.10.28～29 R4.11.8～10、18	ユニットリーダー研修	ユニットケアを取り巻く社会的背景と展望	比留澤文佳 下田恵
11/1～2、 11/8～11/9、 11/11～ 12/8、12/27	認知症介護実践者研修	認知症介護の理念、知識及び技術を習得させ、認知症介護技術の向上を図る	田中香菜子 石寄美津子
10/4～5、 10/14～ 11/10、11/11 ～12、12/6	認知症介護実践者研修	認知症介護の理念、知識及び技術を習得させ、認知症介護技術の向上を図る	西田洋
11/29	がん患者がうけるやさしい虐待	VR教材を活用したダイバーシティ推進	小川一美
12/8	接遇マナーの基本	接遇マナーについて学ぶ	宮崎恵、浦田俊子
12/10	令和4年度 介護職種の技能実習指導員講習	技能実習生の指導に必要な知識・技術を習得する	池田いずみ、比留澤文佳 下田恵
12/14	障害の合理的配慮	発達障害・視覚障害（障害の合理的配慮について学ぶ）	浦田俊子、岩永智津子 江原麻希美
12/15	介護と仕事の両立	認知症を理解する、看取りについて考える	田中優子
12/16	令和4年度 認知症対応力向上研修会	精神疾患を有する方が認知機能低下により施設入所に至ったケース	松瀬幸子
1/11	外部施設見学	ほっとキッチンの衛星管理や仕入れから納品までの取り組みや工夫を学ぶ	淵上果純、甲斐暁子
2/18	あなたの介護を教えてください会議 vol.3	「未来の介護」とは？	吉野 邦子、平井久美子、今田真樹子、
3/6	GH協会 多様な人材へのアプローチと確保、運営の方法	介護職員不足に打ち勝つ運営手法	野村都子、平田直也

令和4年度
(2022年度)
公益事業報告書

彩りある福祉を共創しよう。
公益事業報告書



社会福祉法人ながよ光彩会

法人理念

私たち、社会福祉法人ながよ光彩会は、人のためにできること、地域のためにできること、社会のためにできることを念頭に、その人らしい人格と人権を尊重し、住み慣れた地域の中で安全で安心した豊かな”かがやき”のある暮らしの実現に向け、地域の方と共に考え、共に歩んで参ります。

法人の運営方針

1. 利用者およびそのご家族に対して、親切で、優しく、まごころをもって寄り添う、さりげない介護を目指します
2. 明るい家庭的な雰囲気を大切に、いつでもどこでも誰にでも感謝の気持ちで笑顔を絶やさない職場づくりに努めます
3. 全ての職員が、安心して働ける環境を整え、良好な人間関係を築き、法人の使命を果たすための人材育成に努めます
4. 地域の人々に共感と信頼を得られる社会福祉事業を行うことにより、地域の人々の希望と信頼に応え得る良好な施設運営を目指します
5. 地域における福祉の”拠り所”として、関係機関と連携を密にとり、地域社会の持つ力を尊重し地域福祉の発展に寄与します

公益事業

1. ひととまちとくらしの学校

(1) 介護福祉士実務者研修の実施

令和4年度は当法人職員含め5名の方が受講いただきました。当施設内での新型コロナ感染拡大により、集合研修でのスクーリング日程を変更せざるを得ない状況もありましたが、1名の方を除いては全てのカリキュラムを無事に修了することができました。1名の方は来年度に1科目だけ繰り越して修了を目指すこととなっています。最後までしっかり終了できるようサポートしていきます。



(2) 介護福祉士国家試験模擬試験の実施

令和4年度については介護福祉士国家試験を受験する希望者がいなかったため、開催を見送りました。令和5年度も介護福祉士受験予定者を対象として模擬試験を企画していきます。

2. 職員交流事業について

(1) 誕生日交流会の実施

毎月の誕生日の職員を招待して、みんなのまなびばみ館にて誕生日会を実施しました。12月、1月の新型コロナ感染が拡大していた時期以外の月に開催しました。誕生日会場となったみ館の設営準備や当日の進行、誕生日者への手作りの招待状やお礼手紙など、メイン担当の寺井さんが頑張ってくれました。誕生日会の後には、休みの日に職員がみ館を訪ねてくれたり、み館での取り組みにも関心を持ってくれるきっかけとなりました。



(2) 日常生活での取り組み、情報発信

令和4年度、み館ではフェイスブック、インスタグラム、LINE公式アカウントにて、定期的のみ館の日常取り組みやきょうしつなどを発信しました。フェイスブックとインスタグラムは同時情報発信ができ、インスタ71回、フェイスブック71



回の記事を投稿しました。LINE公式アカウントでは毎月1回～2回きょうしつ情報等含め発信しました。また、近隣自治会への協力をお願いし、み館のきょうしつ情報や、かがやき等の施設情報を盛り込んだチラシを作成し、毎月回覧を行いました。



(3) よみもの記事投稿

み館のスタッフで、フリーライターの森くんが全ての記事を担当しました。まちのさんぽみち、長与駅のプロジェクトや、新しくスタートする障害事業について、また、職員へのインタビュー記事を中心に14本のよみものを公開しました。一緒に働いている職員でも知らないような職員の魅力や人柄が伝わる内容になっています。



3. こども見守り支援事業

(1) こども食堂の開催(らふキッチン)

令和4年度については長与町からの委託事業ではなく、自主事業として月に1回開催しました。スタッフの中山スイリマーを中心に限定30食の食事(タイカレー等)の提供を行いました。事前申し込みをしてもらい、できる限りフードロスをなくすよう工夫も行いました。お米は、農林水産省の政府備蓄米を活用しました。

また、町内の他事業所と連携し、近隣スーパーへ食材支援の協力を依頼するなど、今後も自主事業として活動を継続していけるよう、地域で連携していきたいと思ひます。



(2) おにぎり提供

令和4年10月末まで、毎週月曜日と木曜日に見守りが必要な家庭へ、おにぎりの提供を継続してきました。こども政策課を経由して届けていただきました。み館まで本人がおにぎりを取りに来てくれたり、み館のリビング利用をしてくれたこともありました。今後も地域のニーズに合わせて、わたしたちにできることを継続していきます。



4. 今後の新しい事業展開に向けた準備

シルクスクリーンきょうしつを企画して実施したり、諫早にあるタカシマホールディングス様からいただいた木の端材を使って、ウォーキングイベント「まちのさんぽみち」用のオリジナルスタンプを作成したり、かがやきご利用者さまが木製のキーホルダーを手作りし、交流のある活水中学校の3年生にプレゼントするなど、様々なものづくり行ってきました。今後もみ館での子どもたちへのものづくり体験提供や、新しい商品開発にも繋げていきたいと思えます。



5. み館の2周年に向けた取り組み

(1) み館記念冊子の作成

令和3年度に行った様々なきょうしつや、み館の日常、長与町ウォーキング事業、サロンインストラクター養成研修など、み館の取り組みまとめて記念冊子を作りました。令和4年度についても、スタッフによるデザインで手作りの記念冊子を作成しました。お世話になっている関係者、せんせい、当法人職員、ご利用者家族などに配布しました。



(2) み館フェスの開催

令和4年7月9日(土)み館を会場として、み館フェスを開催しました。

職員、ご家族、み館スタッフを含め総勢51名の方にご参加いただきました。良い天気になりました。

んの方に来ていただきました。来ていただいた方に協力してもらい、み館の壁面に大きなみ館ロゴを作成しました。み館記念冊子も配布して、これまでのみ館の活動やこれからの法人の取り組みについても知ってもらうきっかけになりましたし、たくさん職員の交流が生まれるイベントとなりました。



6. み館の日常の取り組み

(1) 日替り館長による日常

み館では、スタッフ3名が日替りのみ館の館長を担当しています。それぞれの得意を活かしながらみ館の空間づくりなども行いました。

長与町ウォーキングイベントでの利用者も含め、年間合計：1900名以上の方にみ館をご利用いただきました。

子どもたちには、み館のポイントカードを発行し、お手伝いなどを通してポイントが貯まる仕組みをつくりました。ポイントが貯まると、頑張ってくれた対価として駄菓子をプレゼントしました。





(2) きょうしつ開催

令和4年度も継続して職員や地域の方々の好きや得意を活かしたきょうしつを実施しました。年間で合計124回の教室を開催しました。きょうしつを通して、み館に来たいと思ってもらうきっかけにしたいことはもちろんですが、楽しい雰囲気の中で交わされる会話やコミュニケーションを通して、参加者の思いや悩みなどを拾い上げていきたいと思ひます。

きょうしつ名	担当	実施日時
スマホ出前講座@南陽台公民館	畑村竜太	4/13
		
糸掛け曼茶羅きょうしつ	高村玲子	4/13、5/4、6/4、7/23、 8/27、9/24、10/29、11/12、 12/24、3/25
		
厚紙で作る糸掛け コスモサークルきょうしつ	高村玲子	7/27、8/10



ナムワンのタイ料理きょうしつ	中山スイリマー	4/14、5/19、9/14、10/12
----------------	---------	----------------------



タイカレーきょうしつ	中山スイリマー	6/16、7/21
------------	---------	-----------



タイ語きょうしつ	中山スイリマー	8/18、8/24
----------	---------	-----------



てのひらのこーひーきょうしつ	奈良崎博一	4/20、5/21、6/11、7/2、 8/6、8/20、8/27、9/3、 9/24、10/1、10/22、10/29、 12/3、12/24、1/7、1/14、 1/28、2/4、2/11、2/25、 3/4、3/11、3/25
----------------	-------	---



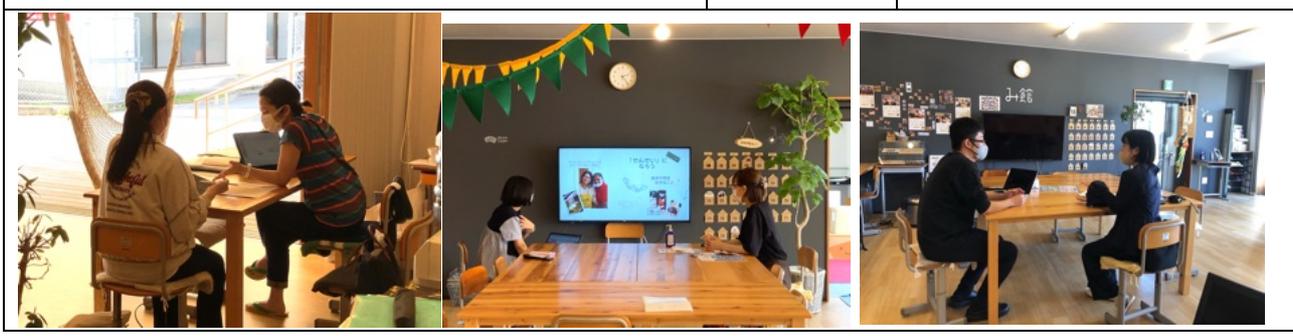
<p>ノルディックウォーキングinながよ</p>	<p>前田慎一郎 高村玲子</p>	<p>4/5、5/3、5/19、6/7、6/16、 7/21、8/18、9/15、10/4、 10/20、11/1、11/17、12/6、 1/3、1/19、2/7、2/16、3/7、 3/16、3/29</p>
--------------------------	-----------------------	--



<p>モバイルづくりきょうしつ</p>	<p>寺井小夜子</p>	<p>8/22</p>
---------------------	--------------	-------------



<p>み館の初めてのせんせいきょうしつ</p>	<p>寺井、中 山、畑村、 奈良崎</p>	<p>6/15、7/20、8/17、9/21、 10/19、11/16、12/21、2/25、 3/25</p>
-------------------------	-------------------------------	--

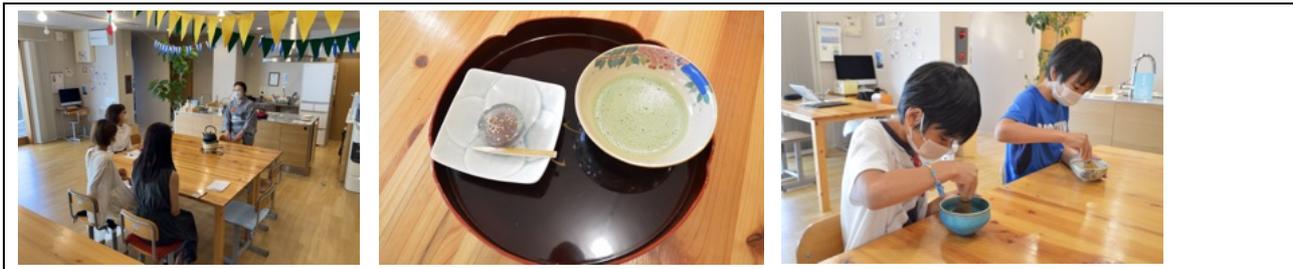


その他、まちのリビングとして利用していただく地域住民との関わりや、定期的な職員へのヒアリングなどから拾い上げたニーズに合ったきょうしつを企画していきます。

また、新たに自分からせんせいをやってみたい方を対象として、「はじめてのせんせいきょうしつ」を毎月開催していきます。み館を運営している私たちの想いを理解していただいた上で、新しいきょうしつを増やしていきたいと思えます。

令和4年度 その他み館のきょうしつについて、下記の通り報告します。

きょうしつ名	担当	実施日時
せいかいのない、おはぎきょうしつ	阿部美和子	4/16、5/28、6/4、7/2、 9/3、10/15、12/3、1/7、 2/4、3/4
		
押し花きょうしつ	進藤敦子	4/12、4/23、5/7、5/21、 6/11、6/18、7/16、7/23、 8/6、9/3、9/17、10/8、 10/15、11/18、12/10、 12/17、1/21、2/4、2/18、 3/11、3/18
		
お気楽茶道きょうしつ	中山順子	4/21、5/19、6/16、7/21、 8/18、9/22、10/27、 11/17、12/15、1/19、 2/16、3/16



(新規)ぐるぐるトントン、パフェ作りきょうしつ
※夏休み企画 阿部美和子 8/6



(新規)押し花で万華鏡作りきょうしつ※夏休み企画 進藤敦子 8/20

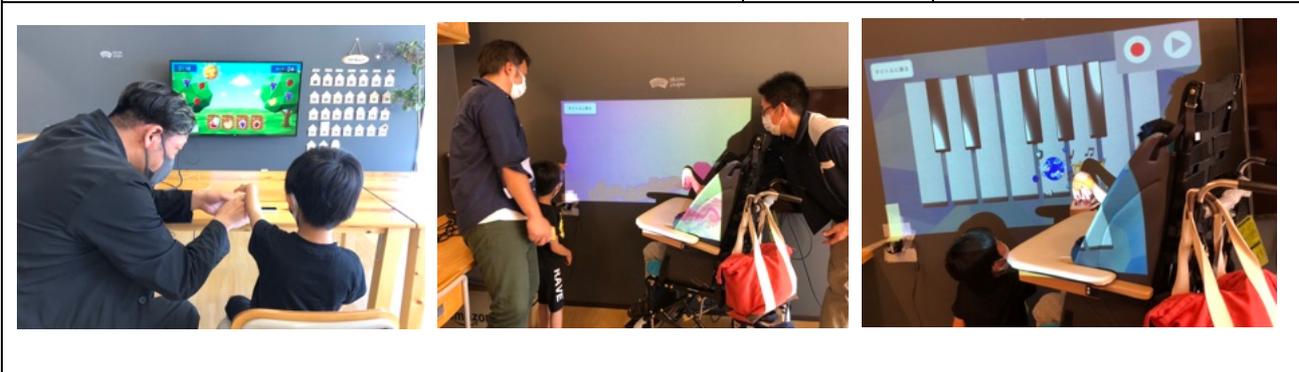


(新規)じぶん色でTシャツつくろ！シルクスクリーン
きょうしつ ※夏休み企画 manto 8/19



(新規)ふよふよ！スライムづくりきょうしつ ※夏
休み企画 川口正春 8/24



(新規) どんぐりであそぼう!	川口正春	10/22
		
秋のツクネいも収穫体験きょうしつ	下岡農場	11/27
		
「デジタルアート×リハビリ?!」だれでも遊べるデジタルリハ体験会@長崎	株式会社デジタルリハ	5/18
		
国際交流イベント「ながよまちカフェ」	長与町国際交流協会	6/25
		

7. DX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた取り組み

（1）ケアカルテの導入

令和4年度「感染症対策に資する介護ロボット等導入支援事業補助金」を活用し、新たに介護記録請求ソフトの「CARE KART E（ケアカルテ）」というソフト導入しました。ケアカルテを使用すれば、パソコンからだけでなく、タブレットからも日々のケア記録を入力することが可能になり、記録業務を効率化することができるようになりました。また、ケアカルテは眠りスキヤンの情報も自動で記録されますし、中尾クリニックとも睡眠情報を共有することができるようになりました。今後はさらに、使いやすくなるようにソフトのカスタマイズを行いながら、活用していきたいと思えます。



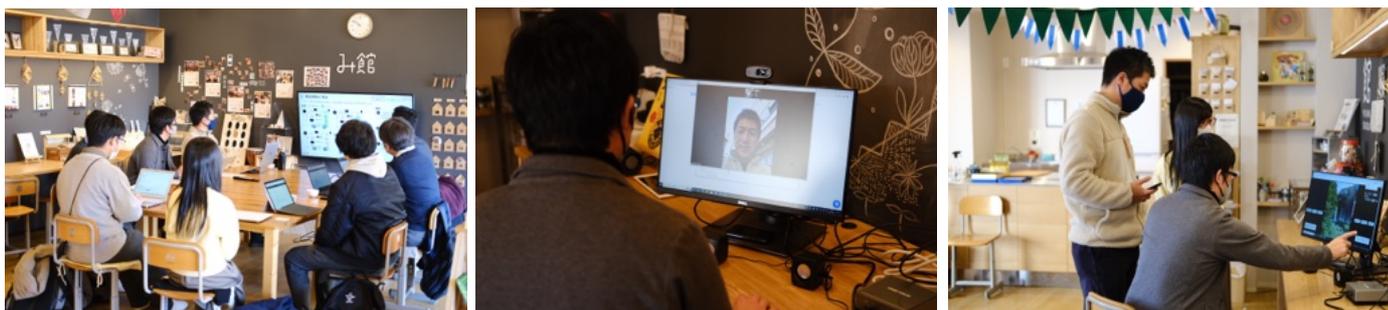
（2）デンソーウェーブ様との共同研究および実証実験

デンソーウェーブ様（長崎大学小林研究室）との共同で、介護現場における課題解決について、共同でふたつの実証実験を行いました。

1つ目は、ご家族とご入居さま間のコミュニケーションをより気軽に行うことができるような「リモートコミュニケーションシステム」、2つ目は、職員間の情報共有をより簡単に、より正確に行える「介護現場のタスク、情報管理システム」です。

それぞれに、介護現場での実証実験や現場職員へのアンケートやヒアリング等も行い、開発者へフィードバックさせていただきました。

すぐに商品化等につながるものではありませんが、介護現場での課題解決に向けて有意義な取り組みとなりました。



8. 長与町ウォーキングイベント（まちのさんぽみち）

令和3年度に実施した「ART WALKING in NAGAYO」に引き続き、みんなのまなびばみ館企画運営で、令和4年11月1日～11月30日の1ヶ月間で、「まちのさんぽみち」というウォーキングイベントを開催しました。ウォーキングコースは設定せず、ご自身の体力に合わせたウォーキングスポットからスタートできるように企画しました。長与町民でも知らないようなおすすめスポットを散策しながら

らウォーキングをしてもらえるように、長崎在住のイラストレーターの方にマップを作成していただき、誰でも参加したくなるような可愛いマップの制作を行いました。また、み館 LINE 公式アカウントを活用して、各ウォーキングスポットに掲示してある「キーワード」を LINE で入力することで、「次の目的地」が自動で表示されるような仕組みを構築して、マップがなくても参加できる仕掛けを行いました。

1ヶ月間合計で813名の方に参加いただき、期間中は、その他様々な美味しい、可愛いコラボイベントも開催し、そこからのウォーキングイベント参加にもつなげることができました。

また、「まちのさんぽみち」Instagramアカウントを作成し、ウォーキング情報等の情報発信を行いました。



★さんぽみちコース（毎日開催）：参加者合計 308 名

ゴールまで①2〜3km、②1〜2km、③500m〜1km というスタートポイントをいくつも設定して、ご自身の体力に合わせて、自由に歩くことができるコースを実施しました。自分の好きなスポットからスタートできて良かった、初めて行く場所だったので知らないところを知ることができて嬉しい、子供と一緒に気軽に参加することができた等の意見をいただきました。





★おべんとうコース（計5回開催）：参加者合計 250名

昨年は合計120名（計4回、各回30名）にて実施しましたが、もっと定員を増やしてほしいとの要望があり、今年度は合計250名に定員を増やし、計5回（11/5、11/12、11/19、11/23、11/26）、各回定員50名にて実施しました。昨年に引き続き大好評で、すぐに申し込みが満員となりました。スタート地点のみ館で空のお弁当箱を渡し、4つの協力店舗（お肉のカーニバル、ふくろう庵、オールウェイズ、ファンタスマーケット）にておかずを集めて周り、最後はみ館で芋ご飯を詰めてお弁当完成。参加者は親子連れを中心に幅広い年齢層の方に参加していただきました。昨年度課題になっていた、お弁当を食べる場所についても、長与川の河川敷に木製ベンチを設置したところ、大好評でたくさんの方に喜んで活用いただきました。



★温泉コース（毎日開催）：参加者合計 49名

シーサイドパーク駐車場をスタートし、長崎温泉喜道庵を目指すコース。

景色が綺麗だった、海を見ながらのウォーキングで楽しく歩けた、などの意見をいただきました。



★西九州新幹線開通記念コース（土日祝開催）：参加者合計 206名

み館をスタート地点として、高田駅と長与駅のキーワードを集めてみ館に戻ってくるコース。

ルールがシンプルで参加しやすかったようで、家族連れを中心にたくさんの方に参加いただきました。切符をイメージしたデザインの参加チケットも好評でした。



○参加賞および特別賞プレゼント

ウォーキング参加賞として、長与町役場から提供いただいた人権啓発関連景品やマスコット人形、トイレットペーパー、クリアファイルの中から好きなものを選んでもらい提供しました。また、子どもたちには、まるみつ長与店様からご寄付いただいた駄菓子の提供を行いました。

特別賞については、ウォーキングに参加するたびにエントリーシート記入、投票することが可能で、イベント終了後に抽選会を開催し当選者 40 名の方に特別賞をプレゼントしました。



9. 令和4年度ながさきヘルシーアワード受賞

令和5年2月5日（日）に、「G7長崎保健大臣会合100日前フォーラム～ながさき健康宣言！～」が出島メッセ長崎のコンベンションホールで開催されました。その中のプログラムで実施された「令和四年度ながさきヘルシーアワード表彰式」にて、昨年度実施したウォーキングイベント「ART Walking in NAGAYO」が、ながさきヘルシーアワード応援部門を受賞しました。まちとの接点を作り出し、楽しみながら長与町民の健康づくりに取り組んだプロジェクトの中身を、公益事業部門の理



事である畑村から発表し、長崎県の長石知事より表彰状を、元プロサッカー選手の久保嘉人さんからサイン入りボールをいただきました。

10. 「九州 DREAM STATION」にぎわいパートナー認定

ながよ光彩会は、まちのリビング・み館に届いた駅の無人化による様々な「まちの困りごと」を受けて、JR長与駅の「公共」と「福祉」の共創、そして賑わいづくりに取り組んでいきます。

令和4年度、JR九州が実施する「九州 DREAM STATION」のにぎわいパートナーとして、ながよ光彩会を認定していただきました。

11月30日（水）には、博多にあるJR九州本社にて、認定証の授与と記者会見が行われました。

会見では貞松理事長が発表し、認定証の授与や報道陣との質疑応答がありました。当日はたくさんの報道陣が取材に来ていただきました。

今後、ながよ光彩会がスタートする障害福祉事業（G0000D）にて、長与駅構内での駅業務の一部委託およびコミュニティーホールにおける就労支援事業を通じた展示、物販イベント等の企画・運営などを予定しています。



11. 介護のしごと魅力発信事業

将来の介護人材を育てるという中・長期的な視点で、小・中学校及び高等学校の生徒たちへ福祉・介護を正しく理解してもらい、将来の職業の1つとして考えていただくための行っている取り組みです。長崎県より委託を受け実施しました。

（1）広報媒体の作成（リーフレット、ウェブサイト、SNS等）

「あなたの介護を教えてください。」の問いをコアとして、下記8名の方のインタビューとプロカメラマンによる撮影を行い、10,000部の冊子を作成しました。

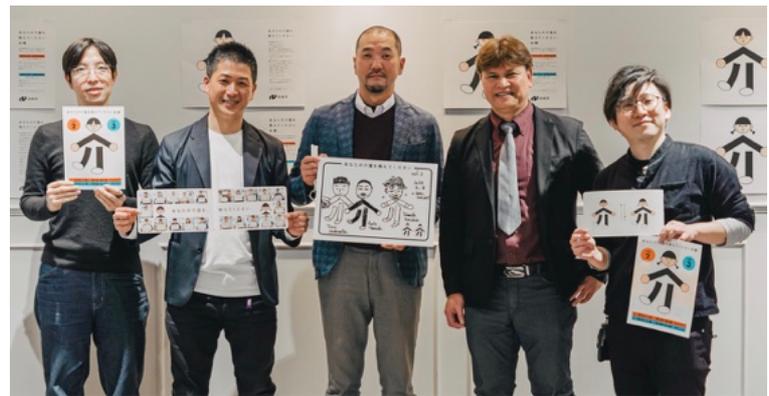
また、特にスマートフォンでの閲覧を想定し、これまでに長崎県が制作を行なった各種サイト、コンテンツのポータルサイトの機能としてのWEBページを作成しました。WEBページでは、冊子掲載を行なったインタビュー記事、イベントの告知の他、県内様々なエリアでフリップを持って頂き「#私の介護」として発信して頂いた県民の方々の写真をスクロールで閲覧できるように設計しております。

※WEBサイト：<https://nagasaki-kaigo-shigoto.jp/>

(2) イベント開催

長崎圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会さまとのタイアップにより、県外ゲストを招いての2部構成のイベント開催と致しました。新型コロナウイルス感染対策として、会場参加人数は20名程度とし、YouTube LIVEでのオンライン視聴を可能としました。

イベント	活動日	場所	内容
あなたの介護を教えてください会議 vol.1	令和4年11月20日 13:00-17:00	みらい長崎ココウオーク 5階 TSUTAYA BOOK STORE	<p>・あなたの介護を教えてください</p> <p>①介護職篇</p> <p>鳥巢智行（クリエイティブディレクター）×草野仁（介護福祉士） ×池田いずみ（介護福祉士）</p> <p>・あなたの介護を教えてください</p> <p>②エンタメ篇</p> <p>貞松徹（経営者）×竹口耕輔（理学療法士）×塩田みう（俳優）</p> <p>・あなたの介護を教えてください</p> <p>③会場篇</p> <p>会場のみなさんとミニワークショップ</p> <p>・あなたの介護を教えてください</p> <p>④経営篇</p> <p>貞松徹（経営者）×中浜崇之（介護福祉士）×秋本可愛（起業家）</p>
あなたの介護を教えてください会議 vol.2	令和5年1月30日 18:15-20:15	みらい長崎ココウオーク 5階 TSUTAYA BOOK STORE	<p>第1部：株式会社ゆずの代表川原さんによる講演・クロストーク</p> <p>第2部：あなたの介護探究ワークショップ</p>
あなたの介護を教えてください会議 vol.3	令和5年2月18日 14:00-16:45	楽ギャラリー	<p>第1部：社会福祉法人スマイリング・パークの理事長山田さんによる講演、クロストーク</p> <p>第2部：あなたの介護を教えてくださいBOOK制作チームイベント</p>



(3) 授業 (小・中学校及び高等学校)

訪問先	活動日	担当者	参加者	内容
鳴見台小学校	令和4年6月23日	原田 竜生	4年生55名 教員3名	・ 視覚、聴覚に障がいがあることでの見え方、聞こえ方 ・ 身体に障がいがあることでの日常の過ごし方 ・ 視覚、聴覚、車椅子、それぞれの体験 ・ 今の私に何ができるだろうを考える
諫早市立長田小学校	令和4年6月27日	原田 竜生	6年生43名 教員3名	〃
野母崎小学校	令和4年6月30日	原田 竜生	4年生28名 教員1名	〃

南長崎小学校	令和4年7月4日	原田 竜生	4年生32名 教員1名	〃
三重小学校	令和4年7月12日	原田 竜生	4年生36名 教員1名	〃
鳴鼓小学校	令和4年7月14日	原田 竜生	4年生62名 教員3名	〃
長崎女子高等学校	令和4年7月25日	原田 竜生 西園瞬	2年生5名 教員1名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚、聴覚に障がいがあることでの見え方、聞こえ方 ・ 身体に障がいがあることでの日常の過ごし方 ・ 視覚、聴覚、車椅子、それぞれの体験 ・ 28日に社会福祉法人ながよ光彩会に訪問する際に、届けるプレゼント
特別養護老人ホームかがやき (長崎女子高等学校が施設来訪)	令和4年7月28日	原田 竜生	2年生5名 教員1名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内見学(特養、ショート、小規模) ・ 小規模の利用者を対象に生徒が考えたレクリエーションの実践 ・ 振り返り
西海市立西海中学校	令和4年9月27日	原田 竜生	2年生52名 教員5名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚、聴覚、身体に障害があることでの困りごと ・ 私達にできること、グループワーク ・ 介護のしごととは ・ 他、体験等
活水中学校	令和4年9月29日	原田 竜生 西園瞬 畑村 竜太 中山 聡子 中山 スイ リマー	3年生26名 教員1名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職種による介護現場への関わり方 ・ 介護現場に対するやりがい、関わり合いを分かりやすく説明 ・ 10月6日に向けた事前学習
諫早市立喜々津小学校	令和4年10月4日	原田 竜生	4年生80名 教員2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚、聴覚に障害があることでの困りごと ・ 介護のしごととは

				・他、体験等
特別養護老人ホームかがやき (活水中学校が施設来訪)	令和4年10月6日	原田竜生 各ユニットリーダー5名	3年生26名 教員2名	・介護業務の中でも大切なしごとについて(実例を元に紹介) ・認知症について ・難聴高齢者の聞こえ方について、伝わりやすくするための工夫 ・担当利用者へのインタビュー ・感想、意見の共有。
大村高等学校	令和4年11月16日	原田竜生	生徒35名 教員2名	・障害について、合理的配慮について(視覚、聴覚、身体障がい者、知的障がい者等) ・介護のしごとの魅力(介護のたいせつな役割とは)
ハローワーク長崎	令和4年11月17日	原田竜生	求職者30名 職員10名	〃
長崎県庁	令和4年11月29日 令和4年11月30日	原田竜生	魅力伝道師20名	介護のしごと魅力伝道師4期生研修講師
向陽高校	令和4年12月21日	原田竜生 森恭佑	介護福祉士科約40名	・障害について、合理的配慮について(視覚、聴覚、身体障がい者、知的障がい者等) ・介護のしごとの魅力(介護のたいせつな役割とは)
長崎県立鳴滝高等学校	令和5年2月9日	原田竜生	生徒26名 教員7名	〃
瓊浦高等学校	令和5年2月20日	原田竜生	生徒80名 教員4名	〃
西海市立西彼中学校	令和5年2月24日	原田竜生 他伝道師1名	生徒140名 教員5名	・介護とはどういうしごとか ・日常も大切であるが非日常こそ大切になりたい ・質疑応答
長崎女子商業高校	令和5年3月3日	原田竜生 他伝道師2名	生徒16名 教員4名	【福祉しごと基礎講座】 ・合理的配慮について ・視覚、聴覚、身体に障がいを持つ方

				の体験、想い、接し方等 ・高齢者への配慮 ・3月10日の介護のしごと学び体験ツアーに向けた事前学習
特別養護老人ホームかがやき （長崎女子商業高校が施設来訪）	令和5年3月10日	原田竜生 介護スタッフ5名	生徒16名 教員2名	【福祉しごと基礎講座】 ・事前学習の振り返り ・担当の利用者へのインタビュー ・各グループより実施しての感想発表



12. その他講演会等

活動月	担当者	内容
令和4年4月	貞松徹	長崎県ユニバーサルツーリズムセンター NHK取材（メディア掲載（ユニバーサル食））
令和4年5月	〃	はびふれラジオ出演 ニシノハテカクメイ(NHK)放送

		やさしいラジオ出演
令和4年6月	〃	HOGET トークイベント 登壇 umino わトークイベント 登壇 長崎県介護支援専門部会 島原支部 講演 南山高校 グローバルコース 講演
令和4年7月	〃	いばふく オンライン登壇 商店街の魅力発見イベント 登壇
令和4年8月	〃	INTERMEDIA 講演
令和4年9月	〃	寿百家店トークイベント 登壇 MEKURUTO トークイベント 登壇 株式会社 PLS 勉強会 講師 喜々津中学校 ふるさとキャリア教育 講師 EPSON ダイバーシティー勉強会 講師
令和4年10月	〃	喜々津中学校 ふるさとキャリア教育 講師 長崎県介護福祉士会 講師 佐世保南高校 探究学習講師 学生×NPO であたびプロジェクト 講師
令和4年11月	〃	南山高校 キャリア教育 講師 喜々津中学校 ふるさとキャリア教育 講師 東彼杵ひとこともの公社 イベント 登壇 熊本県中小企業家同友会 講師 介護のしごと魅力伝道師研修
令和4年12月	〃	ほっちのロッヂ トークイベント 登壇 EPSON 合理的配慮 勉強会 講師 長崎国際大学「地域産業の魅力」講師
令和5年1月	〃	サニクリーン長崎 講演
令和5年2月	〃	NEC 取材(パラスポーツ) 対馬圏域 魅力発信 講演 月間福祉 取材 長崎商業高校 トークイベント 登壇 いばふく 登壇
令和5年3月	〃	グループホーム連絡協議会 講師 であたびプロジェクト 講師